
令和 6 年 第130回（定例）新 温 泉 町 議 会 会 議 録（第 2 日）

令和 6 年 2 月 29 日（木曜日）

議事日程（第 2 号）

令和 6 年 2 月 29 日 午前 9 時開議

日程第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第 1 一般質問

- （ 1 ） 8 番 河越 忠志君
 - （ 2 ） 4 番 米田 雅代君
 - （ 3 ） 2 番 西村 龍平君
-

出席議員（15名）

1 番 中 村 茂君	2 番 西 村 龍 平君
3 番 澤 田 俊 之君	4 番 米 田 雅 代君
5 番 岡 坂 遼 太君	6 番 森 田 善 幸君
7 番 浜 田 直 子君	8 番 河 越 忠 志君
9 番 竹 内 敬一郎君	10番 重 本 静 男君
11番 岩 本 修 作君	12番 宮 本 泰 男君
13番 中 井 勝君	14番 中 井 次 郎君
15番 小 林 俊 之君	

欠席議員（1名）

16番 池 田 宜 広君

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 島 木 正 和君 書記 中 家 亨君

説明のため出席した者の職氏名

町長	西 村 銀 三君	副町長	西 村 徹君
温泉総合支所長	西 澤 要君	牧場公園園長	嶋 津 悟君
総務課長	中 井 勇 人君	企画課長	水 田 賢 治君

税務課長	山 本 幸 治君	町民安全課長	小 谷 豊君
健康福祉課長	朝 野 繁君	商工観光課長	福 井 崇 弘君
農林水産課長	原 憲 一君	建設課長	松 井 豊 茂君
上下水道課長	谷 岡 文 彦君	浜坂病院事務長	宇 野 喜代美君
介護老人保健施設ささゆり事務長	松 岡 宏 典君	会計管理者	谷 渕 朝 子君
こども教育課長	吉 田 博 和君	生涯教育課長	西 脇 一 行君
調整担当	森 田 忠 浩君	代表監査委員	島 田 信 夫君

午前 9 時 0 0 分開議

○副議長（中村 茂君） 皆さん、おはようございます。

第 1 3 0 回新温泉町議会定例会 2 日目の会議を開催するに当たり、議員各位には御参集を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日は、初日に引き続き、一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。議員各位におかれましては、格別の御精励を賜りまして、議事の円滑な運営に御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ただいまの出席議員は 1 5 名で、定足数に達しておりますので、第 1 3 0 回新温泉町議会定例会 2 日目の会議を開きます。

本日の会議日程は、お手元に配付しておりますとおりであります。

日程第 1 一般質問

○副議長（中村 茂君） 日程第 1、一般質問に入ります。

初日に引き続き、受付順に質問を許可いたします。

初めに、8 番、河越忠志君の質問を許可いたします。

8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 改めまして、おはようございます。

最初に、通常の常任委員会から本会議まで、長年にわたり全ての会議を傍聴していただいておりました方が、昨年 1 2 月、不慮の事故により御逝去されました。心よりお悔やみを申し上げ、御冥福をお祈りしつつ、一般質問を始めさせていただきます。

まず最初に、西村町長、2 期目の重点公約についてお聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。

まず、町名は新温泉町。温泉をより生かして、健康、観光、まちづくりの活性化を目指す、それが第一の大きな目標であります。そういった中、具体的な目標として、まず、浜坂認定こども園を現在地で進める、これを第一番で掲げております。それから、2 目が学校給食の半額助成など、子供子育て環境の充実であります。それから、3 目が観光事業者支援、観光などの事業者の支援。具体的には、一人 5,000 円のクーポン券

で、より事業者、それから町民生活の支援、そして、駅前の活性化などであります。それから、4番目がもうかる農業、そして、漁業の振興に力を入れるということ。具体的な中では、ハウス栽培における補助制度の実施、それから堆肥センターの取組、そして、5番目が高齢者が元気な町。具体的には、福祉タクシーのさらなる充実、そして補聴器への助成金。そして、6番目が障がい者が安心して住める町。具体的には、グループホームの早期建設、そして、駅前に障がい者などの運営ができる店舗を造りたい。7番目が女性の意見を生かしたまちづくり。それから、8番目が集落内道路、こういった道路の整備。9番目が浜坂病院のさらなる経営改善、そして、新しい設備機器の充実。10番目はスポーツや温泉を使った合宿など、こういったスポーツを軸にした活性化。それから、11番目はふるさと納税のさらなる強化。具体的にこういった11項目の目標を掲げております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） 私が手元に持っている書面にはなかったのがスポーツの関係の振興ということでしたけれども、町長はそもそも公約とはこういった意味を持ってるものだというふうに御認識されているか、お聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員と一緒に、町民に対し、このような施策で町の活性化につなげていきたい、そういう町民とのお約束であると思っております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） 私の認識では、公約は努力義務であって、それを破ったからといって何の罪にも問われない、そういったものだというふうに認識しています。その中で、時々刻々と変わる状況の中で、必ずしも最初に上げた公約が、それが全てベストだとは思えないことが起こってくるというふうに考えています。

それでは、公約そのものの約束、この約束は誰と誰との約束だというふうにお考えか、お聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先ほど言ったとおり、町民と立候補した候補者、こういった関係をきっちりと施策として実行していく、こういうもんだと思っております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） 少なくともこども園施策については、当時の選挙において、私は両方、候補の施策に賛成できない、そういうふうに選挙の中でも訴えてきました。つまり、約束とは誰と誰であれば、一方がその気がなければ約束にはならない。ましてや浜坂認定こども園に関係ない地域の方々、あるいは関心のないの方々にとっては、公約の当事者にはなれないわけです。様々な事例があると思いますので、そういったことも念頭に置いて、次の質問にお答えいただきたいと思います。

次に、リフレッシュパークゆむらの年間パスが廃止され、復活の要請が強く耳に届い

ていることと思います。その件についてお尋ねしたいと思いますが、町長は、そもそも温泉町夢公社が設置された目的をどのように認識されてるでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当時のこととしては、やはり町の活性化、これが大きな目標ではなかったかと思っております。豊富な温泉資源をまちづくりに生かす、そういう視点だと考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 夢公社とリフレッシュパークゆむらができたその関係性については、どのようにお考えでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 夢公社は株式会社第三セクターであります。町が 51% の株主となっており、49% は町民の団体、こういった状況であります。公のメリット、それから民間のメリット、こういったものをより生かしていく、そういう視点で夢公社は設立された、そういう関係だと考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 当時、第三セクターがとてもはやっていました。そして、リフレッシュパークゆむらも利益を生める、町を活性化させる、そういったレベルの目標を持って設置されたものだというふうに考えています。そのかいあって、多くの利益を生み、税金も納めてくれました。

そういったことの中で、今、リフレッシュパークゆむらそのものの設置の目的が何だったかについて、町長にお尋ねしたいと思います。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 設置目的はさっき言ったとおりであります。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 私がお聞きしてる中では、まず、広域的な観点から地の利を生かし、利用世代を広げ、利用形態を多様化する。天然資源を有効活用し、町民全てのみならず、広く一般に健康増進、保養の場を用意する。町の地形的ハンディを克服し、交通、防災等生活環境整備に寄与せしめる。長期構想に基づく建設投資により、町経済に活力を付与する。町経済の発展と相まって、雇用の場の拡大が図れ、特に若い人の定着の場の出現に期待ができる。

そういった思いの中でリフレッシュパークが設置され、今、リフレッシュパークが町の中の方にどのように愛されているというふうにお考えか、お聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、年間 8 万人、設立当初は 12 万人近くの利用があったわけであります。そういった意味では、この近年において各市町で温泉開発が進んで、そ

それぞれの町で温泉施設がどんどんできた。そういった中、利用が減ってきた。それから、ここ３年間はコロナによって非常に経営的にも厳しい状況があった。そういう現状があると思っておりますが、基本的には町民の健康、そして、観光面も含めた、町の大きな観光拠点の一つ、健康の拠点の一つ、そのように考えております。

○副議長（中村 茂君） ８番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 最近、プールの温度が上がらない、そういった現象の中で、利用の方から、私たちが寄附をしてでも早く直していただきたい、そういった声さえ上がっているように、私はお聞きしています。今、プールが、あるいはリフレッシュのお風呂が多くの方から愛されてる部分がある、それは観光客でない部分もあるかもしれません。

ただ、そういった中で、おんせん天国を提唱し、町長になられた西村町長が簡単にこの年間パスを廃止する推進役になったとは考えません。なぜ廃止に至ったのか、その理由についてお聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ここ、コロナ以降なんですけど、特に採算面で赤字が続いておる、そういう背景も一つにあったと考えております。

一方で、新温泉町には温泉施設はあるわけなんですけど、そういった利用料金における極端なバランスの悪さ、そういったものが背景にあって、こういう年間券の廃止につながったと考えております。

これは議会議員の皆さんにも御理解をしていただいて、議決をしていただいた、そういうことであります。

○副議長（中村 茂君） ８番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 採算が合いにくくなった。多くの利用者の方から、利用料金を改正することについて何らその反対意見っていうのは、私の耳には入ってきません。町長も同じだと思います。一切、そこについては考慮されず提案がされ、何らかの形で皆さんが、私は誤った判断をされたというふうに考えています。

利用料金を理由にするには根拠があまりにも異なっていると思いますが、改めてお聞きしたいと思います。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 経営環境、利用の状況、利用者の状況が大きく変化する中で、赤字が背景にあった、そういうのがリフレッシュの今回の年間券の廃止につながったと思っております。もちろん利用料のバランス、こういったものも当然あると考えております。

今後、方向性については、たくさんの年間券、再度やってほしい、こういう意見もたくさん聞いてますので、検討する余地はあるかな。この７月で年間券の利用ができなくなりますが、一度改めて検証をしたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 少なくとも採算性については見直すところは十分にあると、私はそう思っています。さらに、議会の中でも一部発言があったと思うんですけども、少し迷惑な方がいらっしゃる。そんなふうなことも言われたと思います。

町長は工夫をするっていうことを念頭に持っておられると思います。利用料金についても工夫ができる。例えば、今の値段として維持するのであれば、午前中だけの利用にさせていただくとか、あるいは年齢を上げるとか、料金そのものを上げるとか、様々な形で利用者の対応はできると考えています。さらに、もしも迷惑な方がいらっしゃって、注意しにくい、それは当然だと思います。それがリフレッシュパークのスタッフから出たのであれば、私は利用者の会をつくって、その中でそういった迷惑なことをやっただけかのような形を促していくということさえできる。それはお互いさまということの中でできると思います。様々な工夫がまだまだある。

その中で、私に届いたアンダーグラウンド的情報ではありますけれども、先ほど利用料金の均等ということの中で、地元にある薬師湯の経営を考えているということを言われる方もいらっしゃいました。そうなれば、まさしく共食いの状況。私たちの町は共食いで生きていくのではなくて、外資を得て生きていくような施策が必要だと考えています。そういったことの中で、弱い者を排除するっていう格好を取ることは、行政の施策としては全くの間違いだと私は考えます。

さらに、もっと、プールさえもなくしたらいいというような根底の考え方もあるんじゃないかというような声が聞こえてきました。そうなってくると、先ほどの健康増進もそうだし、例えば、今、照来小学校がプールとして利用してる。温泉小学校のプールも、今、老朽化が激しい。

そういったことの中で、先生方の御負担や、あるいは、町としての費用負担、様々なことを考えていく中で、町全体として、このリフレッシュパークゆむらの在り方、あるいは、夢公社が取り組むべきスタンス、これについても、今までから私は、もはや株式会社である意味がないと言ってきました。もし株式会社であるなら、町が補助あるいは委託をして赤字を補填するようなことはあり得ないし、ましてそれが税金に回っていくようなことがあっては、全く本末転倒だと考えます。

そういったことの中で、この年間パスを廃止したことによる皆さんの衝撃の大きさ、今日、傍聴に来られてる方は本当にがっかりこられた、残念に思われる。

しかし、あなたは銀ちゃんです。銀ちゃんを信じて託した。そして、おんせん天国を全うしたい。銀ちゃんファンの中で、おんせん天国からおんせん地獄に落とされた、そんなことを言われるあなたの支持者もおられました。

あと2年もうない状況の中で、銀ちゃんはやってくれた、そんな行政に戻していただきたい。いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） リフレッシュの経営の在り方については、40年近くなるわけですが、この経営の在り方、例えば資本の在り方、町が51%持っておるわけですが、そのことのメリット、デメリット、改めて検証する必要があると思っております。本当に49%、民の力が発揮できてるのか、そういう面で、経営の在り方、もっとも現場の経営意欲が高まるような方向性が打ち出すことができないか、そういった点が考えていく大事な点かなと思っております。

一方で、都合よく町の都合で右往左往する、こういうことがあってはならないと思っておりますし、やはり現場と町の意識、こういったものの在り方を再検討する必要があると思っております。

経営形態については、いろんな議員から御意見のあったように、いろんな経営形態があると思います。今後、そういう経営内容については、役員会もありますので、役員会のほうできっちり論議をしていただいて、様々な、町民にとって、観光客にとって、喜ばれるような経営の在り方、これは経営改革という点で検討してもらうように持っていきたいと思っております。

それから、おんせん天国は、実はリフレッシュだけのことでなしに、新温泉町は温泉に恵まれている、町名が新温泉、こういうことでおんせん天国、実は旧浜坂、旧温泉町、この共通点である温泉を軸にもっともっとすばらしい町をつくりたい、そういう目的があって、おんせん天国を目標にしてやっている、こういう状況であります。その一つがリフレッシュの温泉であり、七釜温泉であり、ユートピア浜坂であるという具合に考えております。両町がより温泉活用でより活性化につながる、これが大きな目標であります。

年間券だけをもって、銀ちゃんショックですか、天国から地獄という御意見もあったんですけど、そうではないという具合に考えております。こういった今回の年間券廃止を一つの契機として、改めてリフレッシュの在り方を検討するいいチャンスをもたらした、そのように思っておりますので、そういうことで、皆さんの御意見を、年間券の検証をすることで、今後、再検討したいと考えております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） 先ほど、リフレッシュパークゆむらの設置に当たって、最後のところの目的の中で、雇用の場の拡大が図れ、特に若い人の定着の場の出現が期待できる、こういったことについてあったわけですが、近年、若い方がたくさんお辞めになられました。様々な理由をつけておられますけれども、しかし、このコロナ禍の利用の中で赤字、それによってボーナスがカットされた、そういった自分たちの責任に関わらない部分でとばかりを食った職員。本当にそれはやる気がなくなる。

利益が既に出てて余剰金がある、これは夢公社が頑張っただけではなくて、町も頑張っ、共にできた資産だと私は考えます。そういったことの中で、給与カットになったという経営形態そのものが、もう危機的状況にあると私は考えています。

そういったことの中で、今、いい機会だというふうにおっしゃっていただきましたので、そこについては本当に町全体に愛される施設、これがなければ、一部で繁盛につながったからといって、決してそれはいい施策に、町としての施策にならないというふうに考えています。トータルとして町全体に波及する利益を生めるような、それはお金の面ではなくても、そういった施設に生まれ変わっていただきたいと、そんなふうに考えますし、年間パスについては、これは一部の方が、といっても300人です、300人の方ががっかりされる施策っていうのは、これはすごいマイナスの施策だと、私は考えています。

そういったことを踏まえて、町長の支援者の方が、銀ちゃんファンが、天国から地獄だと言われるような施策は取り戻していただきたい、もう一度戻していただきたい。ぜひ、いい方策を練っていただきたいと思います。奮闘を期待いたします。

次に、浜坂高校への支援の方向についてお聞きしたいと思います。

町内には浜坂高校があります。浜坂高校が存続することの意義について、町長はどのように認識しておられるか、お聞きしたいと思います。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） さっきのリフレッシュのことです。

半官半民というか、この第三セクターのメリットをより生かすという点でありますけど、経営が非常に赤字になれば、やはりそこはボーナスの面では対応せざるを得ない場合もあるということは御承知をしていただきたいと。基本給、給料は一切下げておりませんので、ボーナスの上げ下げはやはり業績によって左右される、そこは考えて対応しております。

それから、内部留保もあります。内部留保もやはり職員が志気を落とさない、やる気をなくすことがないように、内部留保を有効に活用して、極力、ボーナスカットなどはない、カットしたことはないんですけど、多少減額になったり、一方で、今年是对応が十分できているという具合に考えております。私も民間ですけど、民間と比べれば、ボーナス額、決して引けを取っていない、そうっております。

それから、浜高の件ですけど、浜高はやはりこの新温泉町に唯一の高校である、これが1点。それから、将来町を担う人材育成、こういった将来の人材、将来町を担うための投資、浜高の存在、そう考えております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） リフレッシュについて再度おっしゃいましたので、お聞きではなくて御意見したいと思います。

実際に若い方が辞められた。先の見通しが持てなくなったから辞めた。その経営については、私は大きな誤りがあったというふうに思います。反省が必要だと思います。今、町長がサポートするような発言をされましたけれども、先ほどの見直しと併せて、もう一度お考えいただきたいなと思います。

それと、浜坂高校の存続について、あるかないか、それだけを今おっしゃられたように思いますけれども、あるかないかだけが価値、そんなふうにお考えなんですか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私があるかないかを決める立場にないんですけど、町民の思い、それが存続につながっていくと考えております。

ただ、県は令和８年度までは存続ははっきりと打ち出しております。それ以降についても、１町に１校は残す、こういう現在の知事の方針があるようであります。

ただ、３年連続定数、例えば浜高だったら、８０人の４０人、この４０人を３年連続割れば、将来の存続について論議をすると。即廃校ということはないんですけど、論議の対象にする、ここまでは県の方針が出ております。

○副議長（中村 茂君） ８番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 私の認識では、定数が半減するというのは、１クラスの定数が半減する。つまり、８０人の定員の中で６０人を切れば、１クラスの４０人の半分を切る。だから、１クラスにすることについての検討の部分だというふうに認識しています。つまり、８０人が４０人を切ったら学校廃止ということではないというふうに認識しています。

その中で１校でも残って、それ、残るだけでいいというふうに町長はお考えなんですか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そういう単純な質問は控えていただきたいです。私はどうして廃止を望むはずもないし。浜高、さっき言ったように、地域の唯一の高校です。期待しとるんです。マイナス発想はやめてほしいと思います。

○副議長（中村 茂君） ８番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 私は、高校が１校残る、これについては、中学生、子供たちの選択肢を提供してやるという、この地域の大人の責任だというふうに考えています。努力が必要だと思っています。

浜坂高校との意見交換の中で、生徒との意見交換の中で、複数のクラスのある高校として残してほしい。それはクラブ活動であったり、様々な活動において、１クラスになってはとても活動が停滞してしまう、そういった意味の中で発信されたと思っています。

昨年、行政視察に行った和気町でも、今、３クラスある。しかし、廃校になるかもしれない。だから、寮を町で造ってでも、町外から来てもらってでも、県外から来てもらってでも、学校を残そう、そういった意気込み。クラスが減っていてもマイナスがある。それを維持しようという地元の努力があるわけです。

そういったことの中で、昨年、中高連携の協議会によって答申もされ、新聞記事にもなりました。その記事の内容について、町長はどのように受け取られてるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 中高連携、もちろん地域の浜高を存続するためにどうあるべきか、その一環として中高連携、こういった考えが出てきたと思っております。何よりも浜高に対する町民の方々の意識をやはり集中していただいて、城北とか鳥取、豊岡に流れる生徒が、かなり半分近くは流れるわけですけど、そこをより地域の浜高の魅力アップにつなげていく、そういう一環として中高連携が考えられている、そう思っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 中高連携の協議会の主導者はどなただったと思いますか、お聞かせください。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） もちろん、この町の教育を担う教育長で、推進を図っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） それは大きな間違いです。県下全域にわたって県教委が中高連携についてのこと、あるいは文科省もそれについて一定の考え方を持っています。そういったことの中で持たれた……。

○町長（西村 銀三君） いやいや、違う、なんでやねん。

○議員（8 番 河越 忠志君） 実際に中高連携については既にやってるところもあるし、検討してることもたくさんあります。私は中高連携はいいことだと思います。

しかし、それは目標であったり、到達点ではない。それだけでは中学生が将来の夢を実現するために、進学の大きな選択肢の一つとして残る、そんな高校ではない、ならないというふうに思っています。地元がそれに他の自治体に負けないだけの努力をして、他の自治体に、その施策に圧倒するような施策を浜高に注がなければ、浜高が中学生から行きたい高校。半分出るというのは、半分がその可能性は浜高では得られない、そう考えるから半分出るわけです。もちろん、相撲をやったり、サッカーであったり、スキーもやる人もいます。様々な選択肢の中で、高校の進学がある。ただ、一般的な部分で浜高でできる、地元が頑張ればできることでさえも、地元が努力しなければ、浜坂高校がその役割を担うことができない。県教委は県下一律の高校に同じ施策しかできない、同じサポートしかできない。だからこそ、地元が頑張る必要がある。1 校残っても、他校に負けない高校にするための努力がこのために必要だと思います。

いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県教委とか、国とか、指導を受けてやっている中高連携ではないということは、誤った考えはちょっと見直しをしてほしいと思っております。町の教育委員会の方針の中で、浜高の魅力アップにつなげる、その一環の中高連携です。一切、県教委は関係ありません。

ぜひ、そんなどっからそういう考えが出るのかよく分からんのですが、ちょっときっちりよく調べてから質問をしてほしいと思います。

浜高の魅力アップ、選択肢、これをやはり地域に合った、例えば新温泉町の場合は観光、民宿、旅館が多いわけです。こういった観光に関する魅力ある学校の在り方。それから、漁業、畜産、こういったすばらしい産業もあるわけです。地域に合った浜高の在り方を検討する、こういったことがより浜高の魅力アップにつながっていくと考えております。

ぜひそういう方向で、選択肢が普通科、かつては商業科もあったわけですが、現在は普通科、それからグローバルもあるわけですが、そういった意味では、議員のおっしゃるように、選択肢をもっともっと広げていく、そういう魅力アップにつなげていく、そういう浜高の在り方を模索する必要があると考えております。

教育長、それから、当然、現場の、学校側の、校長先生をはじめとした先生、職員方のバックアップ、考え方、こういったものも極めて重要です。ただ、町だけが動くということがないよう、常に連携を取って、浜高の魅力アップにつなげていきたい、そう考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 中高連携については、もう既に様々な箇所で実行されてます。前教育長もそれは認識された上で、推進されたと思っています。

ここについてそれを議論しても仕方がないので、実際に中高連携だけで全てが解決するものではないし、それを目標にしたからといって、浜坂高校がより選択肢がある。今、50 人の子供が生まれたとして、その半分であれば25 人。先、本当に20 人を切ってしまったら高校が存続しない。そういったことを踏まえて、複数の高校を、クラスのある高校を目指したりしていく中で、県に任せたり、町が行政していくだけでは、それは達成は難しいと私は考えています。

そういったことの中で、一つ、今までから議会に一つ他の方からも提案がありました。給食について、町が給食を提供することについては、取り組まれる御予定はございませんでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜高の生徒、それから保護者の方々にアンケートを取っております。親の方は大半、多くは賛成が多いようではありますが、生徒については半数ちょっとかなというデータが出ております。アンケートを参考にして、検討をする必要があると思っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） それはどのような形で判断をされるんでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 例えば、学校給食をするとすると、受入れ、浜高側の設備の見

直し、受入れ体制、車の乗り入れ口の改修、それから、いろんな、様々な設備の見直し、充実、こういったものがあります。かなり費用はかかるようであります。

そういった点の費用の点、そして、アンケートから出たそういったアンケートの内容に沿ったものができるかどうか、そういった点を十分考える必要があると考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） それは町の意向だけでできるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先ほど言ったように、現場の校長先生、学校の考え方、こういった双方の考えでやっていく必要があると考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 私が県教委にお尋ねしたところでいくと、町が少なくとも教育的観点から給食について考え、それが必要だということがまず大前提だということをおっしゃっておられました。実際の施設整備については県の担当になる。それは、今、町長がおっしゃられたように、学校現場が受け入れるということが必要です。それと、学校と県教委が協議した中で、実際の財政支出について考える、そんなふうにおっしゃっておられました。

つまり、町が主体的にその意向を固めるという必要があります。それをゆっくりやってるようなレベルではないと思いますし、実際の保護者の負担としては全く違う。子供たちも保護者の負担が軽くなることについて歓迎しない子供たちはいないと思いますし、そういった意味の中で、教育環境を改善するということ。あるいは、教育長がよくおっしゃっておられましたけれども、食育というような形を含めて、地域を愛する子供たちをどんどん増やす。あるいは、実際にこの町のよさを知ってもらうと。そういったことを考えながら教育としての給食というものも考える必要があると思いますので、そういった理念の面での考え方もお考えいただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） おっしゃるとおりだと思います。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 次に、ゼロ歳児保育の受入れについて、お尋ねしたいと思います。

現在、年度途中での受入れが非常に困難だというふうにお聞きしていますけれども、これは移住者を受け入れる体制ができていない、あるいは保護者の就労支援であったり、そういったことについてのサポートができていないということにつながっていると思いますけれども、その現状について町長はどのように認識されてるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 保育園児と保育士との関係が背景にあります。園児の募集が1

1月で締切りをするわけですけど、その時点における申込み、これによって職員採用をある程度考えた上で、配置、職員の募集につなげている、そういう面もあります。そういったところで、年によっては、途中、締め切った以降の申込みがあると非常に対応が苦慮する場合がある、そういう現状であります。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） その現状はそれでいいというふうにお考えなんですか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 当然、職員の募集をして、対応ができないか、その都度行っております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） 私は小学生の頃、先生から、泥縄ということを教えていただいたことがあります。泥縄ってというのは、泥棒が来てから縄をなうという意味の中で、備えができてないことをよくないんじゃないのっていう、教育の中で教えていただきました。

必要だから職員を雇う、雇おうとも簡単に雇えないですよね。そういったことというのは、備えができてない、ウェルカムの状態に移住者来てくださいねと言えてないということだと思いますけれども、それは、私は、行政としては準備が足りていないということだと思いますけれども、いかがお考えでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 多少余裕はいると思いますが、そこは担当課としては十分配慮しながら、職員の募集、採用を行っております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） コロナ禍においても、職員が休まなければいけなくなったことが大変多数あったというふうにお聞きしています。様々な不可抗力の現状っていうのが起こる。そのときに支援しなければいけない需要というのは一定レベルあるとすれば、それに対応する備えが必要じゃないんでしょうか。職員をたくさん雇って、待っててくださいというわけにはいきません。そういった実際の免許、あるいは資格が必要な部署であれば、ほかの部署に行っていただくとか、あるいは小学校の部分にいていただくとか、OBが実際の指導員の中で別の部署に行っていただいて、応援ができる体制を取っておくとか。

求人しても集まらないその時間の中で対応できるようなことを考えておくという備えが必要じゃないかと思いますけれども、そういったことに取り組まれる御予定はございませんでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そういう前提で取り組んでおります。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 現実にそれで対応できてないということについては、備えが足りてないということだと私は思いますので、それについては改めて体制を整えていただきたいというふうに思います。

今のお話の中でいくと、実際に職員が集まらない、そうしていくと、例えば浜坂認定こども園が整備されて、ゼロ歳児保育の環境が整った。職員がその分集まっていたかどうか、そういったことについても準備しておく、あるいは方策を練っておく必要があると思いますけれども、その辺についてはいかがお考えでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 十分そういった点も配慮した上で、担当課では考えて実行をできるように行っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 私がお聞きしてる中では、実際の採用試験にはその定数を超える応募者がある、そんなふうにお聞きしています。ほかのところでは、応募者さえも足りてないというような自治体もたくさんあるように聞いています。

その中で、備えをするということ、要は、ほかの職種で空きがあれば、そういった部分の中で一旦そちらで採用して、資格が要るような部分、今の保育であれば保育の部分で足りなくなったらすぐに補充できるような体制というのを取ることも可能ではないかと思いますので、改めて体制についての備えをお考えいただきたいなというふうに思います。

それから、町長が浜坂認定こども園の現在地が安全だというふうにおっしゃられる理由について、その根拠をお教えいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 一定のかさ上げ、そして、避難が十分できる、津波の場合は県の平成30年の予測というものが出て、浜坂認定こども園においては安全性はあるという、そういう報告も聞いております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 安全性があるというような報告は、私は一切聞いたことがありません。

そうであるならば、元旦の地震による避難指示というのはこのエリアも含まれていたわけですが、安全であれば避難する必要がない。なぜ避難指示が出たのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地震の場合は土砂災害も当然考えられます。今回はNHKが予測、気象庁の予測では、津波の高さ、日本海、浜坂沖では約3メートルという、そういった予測も出ておりました。震度4という、また震度については土砂崩れ、山崩れ、こ

ういった関係も当然あるわけです。そういった全体的な考えの中で避難指示を出した、そういう状況であります。空振りに終わったわけですけど、空振りでよかったというふうな、そういう判断もできたかなと思っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 土砂災害については、一切、町の広報の中で発表されていません。だから、旧温泉であったり、標高の高いところにおられる方はほとんど避難されていないと思います。沿岸部の方が避難された。実際の放送の記録の中でも、沿岸部の方が高台に逃げてください。土砂崩れについて啓発したわけじゃない。

その中で、こども園は安全だからこども園に逃げてくださいというふうにおっしゃられるんでしょうか、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 緊急避難場所としては町内に 8 か所、それから、公民館などに 14 か所あるわけです。そういったところの避難指示であったり、避難する場所としてはあるわけですけど、基本的には自分の命は自分で守る。ふだんからそういう行動を取れるようにやっておく。

今回の大きな反省点の一つとしては、津波は今回初めてであった。従来は台風、大雨、こういったものが訓練の大前提としてあったわけですけど、このたび、津波という初めてこういった経験をした。そういった中で、非常に我々としても判断の対応に苦慮した、そういうことを感じております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） もし浜坂認定こども園が開園されてるとき、この発表があったとすれば、町長は同じように避難指示をされるのか、あるいは、子供たちは逃げなくていいよって言われるのか、どちらでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） やはりふだんからの訓練、これによって、今後、対応策は検討したいと思っております。

ただ、平成 30 年に県が津波に関する予測が出ております。この浜坂海岸沖では、最も近くにある日本海沖活断層がマグニチュード 7.2 で動いた場合、浜坂沖には約 4.1 メーターの津波が来ると言われております。一方で、じゃあ、その津波は岸田川の下流付近では 1.7 メーターになる。保育園付近では約 1.5 メーターと聞いております。そういうことで、津波は一挙に半減される、そういう県の予測、基本的には国がつくったデータでありますけど、そういう県からの報告も予測という形で聞いております。

そういったことで、当初、浜坂認定こども園がすこやか広場に移転というふうな予定、計画もあったんですけど、県のそういった予測、津波は大丈夫だよという予測を受けて、現在地で進めよう、そういう考えに至っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 災害というのは想定外がほとんどです。今まで起こったことがない。

○町長（西村 銀三君） そうですね。

○議員（８番 河越 忠志君） 県も安全だということを広報してるつもりは全くありません。まして今年の正月の５日にあった賀詞交歓会の中で、但馬県民局長が言われました。津波が起こるとき、高潮であれば、現在の県が示している数値よりも、その数値を超えた津波が起こるかもしれないということも発言されました。様々な要因が災害には重なって起こります。まして自然を相手です。活断層がどう動くかを想定するというのは想定までであって、想定外はいっぱいあるわけです。子供たちをそのぎりぎりの線に置かれて、私は行政としての責任は果たせないと思っています。

大雨についてもそうです。子供たちが地震が起こって、本当に危険を冒しながら逃げていく。今回の件でも、お一人が川に転落されて骨折されたと。避難そのものが危険性を持っています。大雨のとき、ぬれながら子供たちが、歩けない子供も逃げていかなければいけない。そういったことを大人が強いることは、決して行政がやることではないというふうに私は思います。

そういったことの中で、今回、大きく町の皆さんの認識も変わられたと思います。町長は先ほどの公約の中で、浜坂こども園を現在地でということを上げられました。しかし、これは約束の当事者もある。約束の相手方が変われば、約束した側も変わる必要がある。町長が公約を変えることは町長の責任じゃないんです。町長は公約を守ることが目指すべきところではなくて、町民の幸福を目指すのが町長の役目だと思います。そして、それが銀ちゃんの銀ちゃんであるゆえんになるんじゃないでしょうか。そういった面の中で、公約に固辞するのではなく、公約に固執するのではなく、町民の安心・安全を追求する。

私は今回の地震の中で、その後に複数の方からこれでこども園問題は解決するねという声をかけていただきました。そう簡単ではありませんよという返事をさせていただいたところ、人の命と公約とどっちが大切なんだという意見もいただきました。公約を守ることではなくて、公約の相手方はどんなふうになるのか、あるいは、公約そのものが相手方は少なかった、私はそんなふうに考えています。

そういったことの中で、十分見直しをされ、この役場全体の中でベストな提案をしていただきたい。私たちもそれをサポートしたいし、少なくとも折り合いはつけれる提案をしていただく、そんなふうに期待してこの質問を終わります。

次に、財源確保に関してお尋ねしたいと思います。

農地に関しては、国は農地の集約化を図ろうとしています。それは、ある意味で大農家、採算性のある農家をつくろうということが目指されているのではないかと思いますけれども、町長はこの農村集落の維持のために、財源をどのように確保すればいいというふうにお考えか、お聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜坂認定こども園、現在地周辺の危険性ばかりをうたっているわけですけど、議員は。私に公約を変えと迫るんですけど、河越議員も自分の主張ばかりを言わずに、変えてほしいなと、逆に提案をさせていただきたいと思っております。

現在地は、現在の土地は1.8メートルのところに約2メートルをかさ上げして、安全性は保たれております。園が過去45年間水につかったことは一度もありません。確かに予想外のことは起こるわけですけど、100%町内安全なところはないと思っております。いかに逃げるか、そういうことはふだんの訓練の中で培われていくと考えております。

問題は、危ないから逃げろでなしに、現在地をどう生かすか、まちづくりの視点で、どう安全性を確保した上で、どう生かしていくか。あなたも設計士ですから、逃げ逃げという、そういう論法を控えていただいて、どう今の土地を生かしていくか、まちづくりの設計士になってほしいと思っております。

それから、農業です。この合併、平成17年10月、農業共済、米の保険に入っている方が約1,600農家がありました。去年は約989。何と600以上減少しました。休耕田、どんどん荒れ地が増えている、これが現状であります。

背景には、米の値段がどんどん下がっている。それから、何よりも高齢化。新温泉町の農家の平均年齢は約72歳であります。そういった意味で、高齢化。一方で少子化、後を継ぐ方も少なくなっている、こういう現状があります。そういった現状をどう、もっとやる気のある農業にできるか、昨年度からハウス栽培を充実するべく補助制度もあるわけですけど、なかなか厳しい状況もあります。

ただ、畜産が世界農業遺産をいただいたというふうなこともあり、非常に畜産の方々には頑張っていて、いい流れはできている面もあるなと考えております。そういったいい面は伸ばしていく。

一方で、特に農業といえば米作りであります。米作り以外のもっともうかる農業はできないか、そういうところに力を入れていく必要があると考えております。普及センターとも連携しながら、もっともっともうかる農業、農業振興を図る方向性を打ち出すにはどうしたらよいか、そういうことを常に考えながら、農林水産課としても頑張りたいと、県とも連携を取っている、そういう状況であります。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） 農村集落の維持という意味で、農業がもうかる農業で専業農家ができるというふうにお考えでしょうか。

○町長（西村 銀三君） ちょっと聞こえません。

もう一度。

○副議長（中村 茂君） 質問と確認。

○議員（8番 河越 忠志君） もうかる農業ができる町になると思われるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 思われるんじゃないしに、していく必要があるということです。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） それは方策があって成り立つことだと私は思います。

また、新温泉町の中で、もちろん農業で成功される方はいらっしゃると思います。しかし、人口を維持するという意味の中での農業というのは、私は成立しないというふうに考えています。

むしろ集落を維持することを考えたときに、大勢の方が関わっていただく必要があると思っています。農地の集約というのは、利用の集約は、私は大いに結構だと思いますので、それは推進したらいいと思います。

しかし、農地の維持、草刈りであったり、様々な、今、有害鳥獣が発生する中で、集落を維持するための人的、要は人力が必要なんです。僅かな方が集落を守っていくことはできないんです。

それをやろうと思ったときに、財源が必要になる。その財源をどのように確保するかということについて、お尋ねしたいと思います。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 農業政策においては中山間の直接手当制度、そういった制度もあります。そういった国の補助制度を有効に利用するという事で、対応を図っていきたい。非常に自主財源の乏しい町でもあります。そういった点は補助金の補助制度の在り方、こういったものを十分検討した上で対応したいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 私は、4 年ぐらいになるとは思いますけれども、農業についての交付税確保について提案をさせていただきました。

新温泉町内には、農業センサスによる農家戸数が1,198 戸あるというふうにお聞きしました。そして、農地面積が2,131ヘクタールあるというふうにお聞きしています。昨年、農地法が改正されて、農業をする権利の移動についても制限がなくなりました。そういったことの中で、農業センサスによる農家は15ヘクタールの農地を活用する権限を持つ、所有であったり、賃貸であってもそれは可能です。

そうすると、現在、1,198 戸ある農家を2 倍の数にすれば、約1,200 戸増えます。そうすると、今の単純な交付税の算入によると、1 戸当たり10 万円の交付税があります。そうすると、1 億2,000 万円の交付税が増えることになります。それを集落営農等団体でやる。今、農業に関わっていない人も加わってもらって、オペレーターをやってもらう。草刈りについては何の経験ない方にも担ってもらう。そういった形をすれば、1 億2,000 万円。今の制度ですから、それは刻々と変わります。減額されるというのは見えています。それにしても、それを活用して過疎債を使えば、4 億円の事業ができることになります。4 億円の事業を各集落の維持のための、コミュニティーづくりであ

ったり、様々な形に使って、その組織を維持する、そういったことも可能じゃないかと思えますけれども、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いい御提案をありがとうございます。

現在、どんどん畑、田んぼが荒れているという状況の中、国からは地域計画、農業の将来像に向けていろんな考え方が出ております。現在、各集落に担当者が出向いて、地域の農業は将来どうあるべきか、現状と将来に向けた話し合いをさせていただいております。そういった中で、新たな町の農業の在り方、御意見を集約して、方向性を出していきたい、そう考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 私のこの提案は4年前に出させていただきましたけれども、一切検討されていません。そういったことの中で、改めて検討させていただいて、ぜひ集落が維持できる。集落が元気になればこの町は確実に元気になるし、若者もこの町で暮らせるという見通しが見えてきます。それは、農業をするということだけでなく、それが見えてくると思います。大人が元気になると子供も元気になる、そういったことを目指してまちづくりに取り組んでいただきたいなというふうに思います。

同じように、この人口減少が進めば、おのずと交付税が減らされるというふうに考えられますけれども、今、この町で努力できることとして、ふるさと納税があります。担当課、担当者を張りつけられましたけれども、私の耳には、その成果について報告、あるいはどんなことをされてるかということが、私の調査不足かもしれませんが、分かりません。その辺りについてお聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ふるさと納税、今年度4億円を目標にしたんですけど、3億円を少し切れる、そういう状況であります。背景には様々な状況があるわけですけど、この魅力的な産品の在り方、それから納期の在り方、それとPRの仕方、そういったものを現在なぜ低迷しているか研究をいたしております。

さとふるであるとか、そういった業者に大きくお願いをしておるわけですけど、そういった在り方についても見直す必要があるということで考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 様々な工夫は人任せではできません。多くの人に関心を持って考えていただくような機運をつくらなければ、いい案が浮かびませんし、また、サイトにそれを求めることは不可能です。もっとたくさん集めているところがそのサイトの収益につながっているからです。

そういった意味の中で、この町がいかに工夫するか、自分たちがいかに工夫するかが重要だと思いますので、改めてその方策について考えていただきたいなというふうに思います。

時間がなくなってきましたので、最後の質問に移させていただきます。

昨年、令和5年9月の議会において、2度にわたって提案された新市橋上部工の修繕工事において、その2回の契約を適正だというふうに考えておられると思いますけれども、その理由についてお聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新市橋、非常に老朽化し、路面もがたがた。そういう中で、改修工事に入りました。

結果、実は、議員御指摘のように、今回の御質問の背景には、3回にわたる追加補正があった、こういったことに対する、それでいいのかという御質問ではないかと思っております。

私たちとしまして、やはり1回の見積り、入札、工事、これが本来のあるべき姿だと思っておりますが、今回、工事の途中で2回の補正、見直し、そして最後は、これは物価高騰対策としての補正という、こういう形でありました。極力、事前の入札段階、設計段階における丁寧なといいますか、きちりとした設計が必要ではないかと、反省もいたしております。

一方で、やはり工事に向かってみて初めて新たな問題点が発生する、こういうことも往々にしてあるわけです。過去にも何度かこういう事例はありました。そこは、実際、現場でやはり工事の業者の皆さんが工事をする中で、あっ、ここにも不備がありますよと、こういう場合は、どうしても補正、再度予算のプラス、こういうことはやむを得ない状況があった、そのように考えております。

ぜひ、河越議員、設計士ですから、そこは十分御理解をできるという具合に考えております。

○副議長（中村 茂君） 8番、河越忠志君。

○議員（8番 河越 忠志君） 私は、変更契約については肯定します。全く問題はないと思います、変更することについては。

私がお聞きしたいのは、まず最初に、令和5年9月6日の契約変更に係る亀裂の増加の原因はどのように認識しておられるか、お聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私、工事について詳しい知識ありませんから、私がそこに対して意見を申すということは非常に難しい立場にあります。そういった、そこに補正が上がってくるまでの考え方、正当性というのは、担当課長、係長、それから担当の職員、こういった判断を持って上がってきて、そして、私が最終的に決裁するということで、きちりとした対応をやった、そういう結果だと思っております。不正は一切ありません。

○副議長（中村 茂君） 質問時間が少なくなりました。整理して質問してください。
8番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 着工したときから、工事途中に亀裂が増えた。この原因について、担当課から報告を受けておられますか。あるいは、その理由について理解されているでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 一々工事の、ここに亀裂があった、それを一々僕に担当課から報告があるようなことはありません。結果として補正の段階で、こういう状況で補正が必要になりました。その最終結果は聞いております。その都度、細かいことを担当課から僕に報告はありません。そういうものでもないという具合に考えております。

○副議長（中村 茂君） ８番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 変更契約に当たって、その必要性について担当課だけしかその内容を把握せずに契約し、支出し、支出する前に変更契約が起こりますから、議会にその報告がある。議会も全ての情報が公開されていない中で、否認することは非常に難しい。

ただ、私は専門分野でもあるので、変更が起こる、ましてや着工時点になかった亀裂が起こったとすれば、その起こった原因がある。その原因が例えば地震であれば、ああ、それは仕方ないね。それが地震ではなくて、工事の責任であれば、責任は工事者にある。あるいは、最初の設計が本来あるべき亀裂がちゃんと設計に載っかっていなかったとすれば、それは設計した段階、調査した調査者が悪いのか、あるいは調査してからその着工までに発生したことに原因があるのか、あるいは着工した時点で、請負者は設計と違う状況で亀裂がたくさんあるようであれば、その時点で町に申し出て、あっ、それは町が発注したのと間違ってるから、これは町の責任の中で発注するよ。でも、その差は調査と違うということであれば、調査の段階での誤りがある。そこにも責任がある。

だから、様々な請負者には保険があります。過失であれば、その保険で賄われるし、それが故意であれば、それは犯罪性になってきます。様々なところに理由があるわけです。理由のないところに結果はないんです。

そういった意味の中で、誰も知らずに契約をしなければいけないということが起こるものか、その辺りについてお聞かせいただけますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員の御質問は何かずさんに判こだけを押しとるような、そういう質問に聞こえるんですけど、きっちりと担当課なり責任者がチェックして、そして上がってくる、それを決裁する、そういうことですから、何かもう本当にひどいような処理をされてるような御質問をされるんですけど、そんなことは、公の仕事、みんな一生懸命やっていますから、あり得ません。

○副議長（中村 茂君） ８番、河越忠志君。

○議員（８番 河越 忠志君） 私はこの議会に臨むに当たって、資料の請求を求めました。この関係、数量がどういうふうにチェックされましたか、様々な資料を請求させて

いただきました。コンサルタントの請負契約についても、契約書の資料を請求しました。一切、提出をいただいていません。公開できない、議員にさえ公開できない、一切公開できない、黒塗りのところがある資料さえも提供されない、それが適正にやっているというふうに、町長はお考えでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員は設計士です。設計におけるそういった詳細な資料を議員に対して、設計士という立場で見る。私はそれはちょっと行き過ぎた行為だと。議員ですから、一般が分かるような、そういう情報公開なら当然しますよ。しかし、ほかの設計業者が書いた、作った資料を目を通して、あなたがチェックすると。私はちょっと行き過ぎではないかと考えております。

ぜひそこは良識の範囲で対応してほしい、ぜひ自分の業務と結びつけるようなことになってはならないと考えております。

○副議長（中村 茂君） 8 番、河越忠志君。

○議員（8 番 河越 忠志君） 私は土木のほうについても少しは分かりますけれども、土木の専門屋でもありません。

ただ、金額が上がるということは、数量があって、単価があって、金額が上がる。これは、ここにおられる全ての方が分かります。その根拠が示されなければ、誰もそれが正当だと思われない。例えば、住宅を建てるときに見積書が来ます。分からないことは尋ねます。この数量どうですか、尋ねます。あるいは、誰か知ってる人に、この数量合ってるだろうかというようなことも聞かれます。ましてや最後の契約についてはスライドについて契約しています。これは当初の契約が条件なんです。9 月の変更分はこのスライドの対象にならない。これを役場の中で誰も分からなかったということは、とてもマイナスだと思います。

最後にお考えをお聞かせください。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 役場の業務で適正でない行為でなされているという御質問の趣旨に見えるんですけど、我々は何重のチェックをして、適正に法律、条例、そういうものを確認して、法制審査会を通して提案をさせていただいております。ぜひ間違った印象を残すような御質問にならんようにしてほしいと思います。

○副議長（中村 茂君） これをもって河越忠志君の質問を終わります。

○副議長（中村 茂君） 暫時休憩いたします。10 時 35 分まで。

午前 10 時 19 分休憩

午前 10 時 35 分再開

○副議長（中村 茂君） それでは、休憩を閉じて、会議を再開いたします。

次に、4 番、米田雅代君の質問を許可いたします。

4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 4 番、米田雅代でございます。議長の許可を得ましたので、一般質問をいたします。

では、1 の防災についてでございます。

能登半島地震から丸2 か月が経過しようとしています。被災の惨状、復旧、復興の厳しさを目の当たりにし、身につまされるものがございました。本町は能登地方と同じように、日本海側に位置し、人口の減少と高齢化に直面しております。このような大災害が本町で起きたらどう対処するのか、平時からしっかりと備える必要があります。そのためにも自治体は自然災害から町民の生命と財産を守るという観点を最上位に置いて、まちづくりを進めるべきものであると私は考えております。

町長はどのような見解をお持ちでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘のとおり、町民の安心・安全をきっちりと確保する、そういう大きな町には役割があると思います。

一方で今回、津波というふうな、僕も津波の警報というのは初めての経験です。大雨、台風、こういった災害の予測で、これまでの訓練であるとか、やってきたわけですけど、改めて津波に対する訓練っていいですか、ふだんからの備えが必要だということを感じております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） とはいえ、先ほど町長はおっしゃいましたが、今回は津波警報に対してどのように対処したかが問われております。1 月1 日、本町では津波警報により町全域に避難指示を発令し、1,300 人以上の町民と帰省客等が避難しました。

①です。検証と課題について。先日の同僚の質問の中で、3 回検証したと答弁がありましたが、3 回それぞれについて、日時、場所、どのような構成で、何人集まって検証したのか、また、そこであぶり出された反省点と課題はどのようなものでしたでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 全課長がまず集まったのが1 月17 日。各課の課長22 名が集まって、反省点の検証ということで御意見をいただいております。その後、2 月5 日、これは所管課、対応した総務課、町民安全課、企画課、建設課、こども教育課、防災安全室長、8 名で、1 回目の会議で出された課題について方向性をどうしようかということで、会議を行っております。それから、2 月19 日、同じく8 名で、結果的に今後の対応をこうしようというふうなことを話し合っております。

内容については委員会でもお示ししたいという具合に考えておりますが、まずは避難の告知、避難指示全域、もしくは海岸線沿い、こういったもののそれでよかったのかど

うか、結果的に大きな被害はなかったわけですけど、そういった点。それから、会議をする、対策本部を1階の町民安全課周辺でやったわけですけど、そういった本部会議の場が果たしてそこでよかったのかどうか。本来は2階の会議室で行うべきではないかとか。それから、あとは避難の情報提供の在り方。この1月1日は、町の防災放送で4回告知を行いました。その放送、昨日、おとといも森田議員からも放送内容の言葉の、高台であるとか避難、それは高いところ、逃げるという分かりやすい日本語を使うべきではないかというふうな御指摘もいただいておりますけど、そういった告知の在り方、回数が4回だったんですけど、内容も含めて、そういった点。それから、逃げた場所における鍵は誰が持って、どうあるべきなのか、担当者はどうか、そういった確認。担当は決まっておるわけですけど、そういった鍵の在り方。それから、学校の場合は、じゃあ、学校の先生との連携はどうなのか、校長先生はきっちりと対応されたのかどうか、そういった点。それから、エアコンがなかった、寒いな、一般の教室は意見の中で利用できないのか、そういう意見もありました。それと、避難された場所に対して、毛布が欲しいとか、そういった意見もありましたし、食料、食品、そういった点は必要なのかどうなのか。そういった様々な観点で情報の共有をして、今後に向ける。それから、新聞にも載ったんですけど、家屋、一般住宅の耐震性がどうなのか、本町は六十数%なんですけど、まだまだ耐震化が遅れている、そういう状況もあります。今後の方向性としては様々な観点で見直す点があったかなと思っております。

一方で、スマホによる情報提供は素早くできたということ、一斉放送では十分ではなかったんですけど、スマホによる情報提供は対応はよかったかなと思っておりますし、町民の皆さんからも非常に評価をいただいております。そういった点、反省点として今後に生かしていきたいと思っております。

ただ、何よりも、自分の命は自分で守る、これが最大限必要。それから3日分の食料はやっぱり自分たち、自分の家族で確保する、そういった大前提。それから一番大事なのは訓練、ふだんからの避難訓練をもっとやっていく必要があるな、そういったことを反省点として考えております。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） 3回の検証を通して、そのような反省点であり、課題が見つかったということでしょうか。

それと、場所についてですが、今回のこの検証が行われた場所はどこでされたのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 2階の会議室と町長室です。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） では、②番ですが、町民に対してのアンケートや聞き取りはされましたか。先日の答弁で、アンケートはされていないとのことでしたが、もう

一度確認をいたします。

また、されていないとすれば、その理由をお聞かせください。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） アンケートは取っておりません、現状では。昨日もおとといもアンケートをどうするんだという御意見もいただいております。

ただ、沿岸部の、海岸沿いの区長をはじめ、そういった方々には、今回の御意見、反省点について現状どうだったのか、聞き取りをさせていただいております。

今後、例えば防災リーダー、それから、民生委員にも非常に今回、避難の際に御協力をいただいている方もありますので、そういった方々、関連の方々には聞き取り調査、もしくはアンケートによる調査をしてはどうか、そういうことを検討いたしております。町民全体にアンケートというのは、するかしないか検討、それも含めてアンケートの取り方を検討したいなと思っております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） はい。ただいまの答弁の中で聞き取りの話が出てまいりましたが、聞き取りについてはどのような目的を持って、誰がいつ頃、対象はどの範囲で聞き取りの要点は何だったのか、そして、また町民の皆さん、聞き取りをされた対象の皆さんから指摘された問題点はありましたか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 具体的には、釜屋ではどのような避難対応をされたのか、何人ぐらいが集まったのか、そういう状況、それから時間はどうなったのか、そういった点をまず現状、1 月 1 日の現状について聞いております。それで困ったことはどうなのか、三尾地区では小三尾と大三尾があります。それぞれの避難状況はどうなったのか、そういった点も含めて各集落ごと地域ごとで状況が様々であります。そういった点、今後も含めて聞いた御意見を反省点として今後の対応策として考えてまいります。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 私がお聞きしたかったのは、誰が聞き取り調査をされたのか、町長お一人がいろんなところに出向かれて聞かれたのか、誰がどのような目的を持って、対象はどの対象で、同じ問題、質問をすることによって課題が浮かび上がってくるものだろうと私は思っているんですが、今の御答弁では私が描いている聞き取りのイメージと少し違うような気がするのですが、もう一度どなたが聞き取りをされて、誰を対象に聞き取りをされて、それで何について、どんな目的を持って、何について聞きたかったのか、そういったところをもう一度お願いいたします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 防災安全室長が聞き取りをしております。目的は今後、現状の把握現状調査、それから今後の問題点、こういった点であります。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） もう一度、対象は。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） さっきも言ったとおり、はい、沿岸部中心の区長であります。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 今回、全域に避難指示を出されました。では、全域に出したのであれば当然、沿岸部の方だけではなく、当然、土砂災害、そういったものを懸念されて全体に出されたとすれば、当然そういった地区の方々に対しても聞き取り調査をされるべきだと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 被害の状況から全体の聞き取り調査までは必要ないかなと判断しております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 私もいろんな方にお話を伺いました。その中で一番印象に残ったのは、一番といいますか印象に残ったのは、元日でよかった。これが平日のこの時間だったら私は仕事で新温泉町内にはいない。私だけではなく役員全員だ。普通の日であれば高齢者の避難を手伝うことはできない。また、帰省の娘夫婦がいたので、家内と奥さんと娘夫婦に母親は任せて自分は消防団の任務に就くことができた。また、中には避難ができずに取り残された高齢者もいた。うちの町内は避難等をしなかったのは半々で、しなかったのは高齢者のみの世帯であった等をお聞きいたしました。町長は今、私がこのような例もありましたよってという話を聞かれて、どのようにお感じになられたでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 米田議員の話を聞くまでもなく、ある地区からは民生委員の方、そして家族の方、高齢者、足腰の悪い方が協力して避難された、こういった方も何軒かは聞いております。一番やっぱり避難をするのに困難な方、障がいをお持ちの方、高齢者の方々、こういった者、こういった方々に対してどう対応するか、やはりふだんからの心がけ、訓練、こういったものは改めて必要だなと感じております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 町長は、２７日の施政方針の中で、このたびの教訓を生かして町の防災力をますます高めていく必要があると感じたとおっしゃいましたが、まずどのような教訓を得られたのでしょうか。また、町の防災力とは具体的にどのようなものを指しているのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いろんな観点で反省点があったと思っております。避難場所のこと、情報提供のこと、そして避難した後の対応、それから例えば救援物資の設置をしておるわけですけど、救援物資の分散で置くようなこと、いろんなことが反省点として

出ております。生命と安全を守るためにどうできるか、そういった観点で対応をしてまいりたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 町の防災力とは具体的にどのようなものってことに御答弁いただいてないと思いますが。（「町の防災力」と呼ぶ者あり）

○町長（西村 銀三君） 町の防災力。さっきも言ったように、情報提供の在り方とか支援体制の在り方、そういったものをきっちりと認識し、再認識して緊急時に備えていく、そういうことだと思っております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 申し訳ありません。ちょっと理解、私には申し訳ありません、今おっしゃられた町の防災力が今、町長がおっしゃられたことなのかという理解ができなくて申し訳ありませんが、次に行かせていただきます。

これらの検証を経て、仮にの質問には答えられないとお思になるかも知れませんが、もし同じように震度4の地震があり、津波警報が発令された場合、本町災害対策本部はどのような対応をされますか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今回も即、幹部職員に当たっていただきました。何よりも消防団との連携の中で現状の把握、そして把握した事実に対する対応策、こういったものをどう構築して対応するか、こういった点が一番大事だと思っております。今回、正月ということで非常に職員の状況もお酒飲んでいるとか、そういうことで課題もあるわけですけど、そういった点も含めて反省点としてあるわけですけど、この防災力強化、どうあるべきか改めて見直しを図ってまいります。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 避難指示についてはどうされるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 避難指示については、今回も神戸新聞の方が言っとったんですけど、空振りだけど出してない、全く出してない地域もある、海岸だけ出した地域もある、新温泉は全域に出した、全域に出してよかったというそういう評価もいただいております。ただ、今回、津波という初めての状況もあり、避難警報から注意報に変わるまでは安心できないかな、そういう思いもあったんで、そういう、何ていいますか、時系列における変化にどう柔軟な対応ができるか、それは反省点として残っていると思っております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 本町は防災計画を立てておられます。今回の避難指示、そういったものは防災計画に基づいたものであったのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

- 町長（西村 銀三君） はい。防災計画に基づいておりますし、J－A L E R T、国の一斉のそういう告知、さらには携帯電話による津波警報の告知、こういったものもありましたし、対応はできていると考えております。
- 副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。
- 議員（4 番 米田 雅代君） 防災計画に基づいているのであれば、町全域に避難指示を出されたということは、職員皆さんに対して本部のほうに集まるべき方が皆さん集まられたってということなののでしょうか。また、避難場所を開設したときに担当、鍵を持っている担当者の方がおられたと思いますが、そういった方たちを全てそういった避難場所に対して派遣されていたということでしょうか。
- 副議長（中村 茂君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 正月 1 日というふうな状況もあり職員が即対応できていないところもあったと思っておりますが、基本的には担当職員にはきっちりとそういう方向で動いていただいたと思っております。
- 副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。
- 議員（4 番 米田 雅代君） 1 月 1 日の本町の対応、そして、また、昨年 8 月 1 5 日の台風 7 号の対応について、防災の専門家を招いて検証をされたのでしょうか。
- 副議長（中村 茂君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 防災の専門家という意味が分かりません。
- 副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。
- 議員（4 番 米田 雅代君） いろいろ浜坂認定こども園においても専門家を招いたり、いろんな形で検討されたと思いますが、そういった形で相談をされるというようなそういう方はいらっしゃらないのでしょうか。
- 副議長（中村 茂君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） 防災会議がありまして、県の担当者、それから県民局、土木、それから警察、道路関係者、関西電力、それから交通関係者さらには N T T、そういった関係者の会議を持たしていただいて御意見も聞いております。
- 副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。
- 議員（4 番 米田 雅代君） では、これからもそのような機会は持つ予定はないということでしょうか。
- 副議長（中村 茂君） 西村町長。
- 町長（西村 銀三君） はい。議員からも御意見聞きながら、専門家という誰を言っているのかちょっと、ラジオ聞いてますと N H K なんかでは矢守さんという神戸の防災専門の大学教授もいるわけですけど、そういう方を言っとるんですか。
- 副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。
- 議員（4 番 米田 雅代君） 兵庫県は阪神淡路大地震を経験した県であります。そういった意味で神戸にもそういったような防災室ですかね、そういった広報するような場

所もあったかと記憶しております。そういった意味で県に相談されたり、こういったときに間違いなく町民の命や安全を守るためにはどうしたらいいのかという視点の中で、紹介願えないだろうかというような形で幾らでもつてはあるのではないかと思います、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 防災監が一人一人の命を守ってくれるわけではないと思っています。あくまでも事前のそういう訓練であるとか、自分の命を守るためにふだんからどこに逃げたらいいのか、そういう自分の命を自分で守る、今朝もNHKテレビではやってきましたけど、お母さんを待ったために亡くなってしまったとかそういうことはあったんですけど、やはり自分の命、改めて自分で守っていく、そういうことが大事だというふうなNHKでもやってたんですけど、そういうことで防災監の問題ではないというふうに考えております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） では、もう次に行かせていただきます。(2)の災害への備えについてに行かせていただきます。

町長は御存じだと思いますが、道路啓開という言葉があります。啓は啓発の啓、開は開発の開と書き、両方とも開くという意味です。寸断された道路を切り開き、72時間以内に救助隊を現地に送り込む、それが道路啓開でございます。東日本大震災の折、道路啓開計画をくしの歯作戦で実践し、高く評価された責任者の方が次のように述べておられます。備えていたことしか役に立たない。危険だけでできたことはない。私は避難は災害から命を守る最終手段だと考えております。そのため、いかに早く安全な場所に避難してもらうか、平時にしっかりと体制を整える必要があります。それは町長が何度も訓練であったりそういったことをおっしゃっておられたと思いますが、そういったことも含まれると思います。それとともに、被害を最小限に抑えて一日でも早く日常を取り戻すためにどのようなまちづくりを進めていくのか、行政の果たす役割は大きいと考えておりますが、町長の御見解をお聞きいたします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） インフラといって水道、下水、道路、電気、通信、こういったところをどういち早く対応できるか、こういった点が最も大事なポイントだと思っています。日夜、古い老朽管の設備更新もやっておるわけですけど、そういった日常のこのインフラ整備、これをきっちりとやることはふだんにおいて大切だ、それは非常時に有効に活用できる、そうしております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） ただいま町長から水の話が出てまいりましたが、そちらのほうに行かせていただきます。

今おっしゃられたように、水は生きていく上で欠かすことのできないものです。では、

①の上下水道施設についてお聞きいたします。2月27日の新聞紙上で1面の見出しは、能登地震、下水管52%被害でした。せっかく断水が解消した上水道も排水ができないので使えず、トイレ、洗濯やお風呂など生活に影響が出ているそうです。平時から上下水道一帯での管理・整備が求められております。アでございます。令和3年度に完了している下水道施設の耐水化計画の進捗状況をお伺いいたします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この令和6年度に実施計画、それから令和7年度に工事を予定いたしております。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） 令和3年度に完了しております。確かに県との関係、いろんな関係があると思いますが、下水道施設は先ほど申し上げたみたいに生活を支える大変なインフラでございます。その中で一日も早く工事を進めていただきたい、そういう思いを持っております。では、令和6年度に設計業務、令和7年度に完成ということ認識でよろしいでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） はい。今、言ったとおりであります。完成でなしに工事を令和7年度に行う。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） 工事を令和7年度中に行うということであって、令和7年度に完成するということではないという意味合いでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 令和7年度中に工事を完了します。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） では、いいですが、上下水道施設の耐震化と耐震管への移行はどの程度進んでいるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） はい。具体的に上水道の耐震化です。令和4年度末現在、上水施設の耐震化率22.1%、それから配水池の耐震化率が47.1%、管路、本管の耐震の、訂正します、上水道はそういう状況。下水管につきましては、処理場、管路とも耐震性能を全て有しておるということであります。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） では、上水道に関しても計画を立てて、進めていかれるおつもりなんでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 順次、計画的に見直しを行います。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） うでございます。兵庫県内の２７水道事業体は、２０２４年度に人工衛星を利用した水道管の漏水調査に乗り出すとの報道がございました。本町はその２７事業体の中に入っているのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） はい。本町も入っております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 人材不足と伺っております。その中で、やはり人工衛星でありますとかＡＩでありますとか、そういったものを活用して人材不足を補っていくということは非常に有意義なことであると思っております。

では、エでございます。下水道料金の統一、さらには水道料金の適正化に向かうべきだと思いますがどうかというところで、災害への備えということもありますが、上下水道施設の老朽化に、あ、ごめんなさい、申し訳ありません。すみません、失礼いたしました。合併当初の下水道料金の統一についてに行かせていただきます。合併当初の格差はある意味仕方のないものであったかも分かりません。しかし、今なお同じ町で同じサービスを受けながら下水道料金体系が違うことについて、町長はどのようにお考えでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） かつて平成２９年の議会においてこの料金改定が否決をなされております。今日までその状況が続いております。現在ストックマネジメントの計画を進めております。全体の見直し計画を改めて計画を見直す中で方向性を打ち出したいと思っております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 何よりも公平感が大事だと思います。先ほど申しましたように上下水道一体での管理・整備が求められております。であれば、下水道料金の見直しは喫緊の課題であり、いつまでには統一するという不退転の決意で臨むべきではないかと思いますが、その覚悟はおありでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 良質な水道を提供する、なおかつ安定的に提供する、そして料金についても適正な料金制度を公平に行う、これは対応する必要があると考えております。現在そういったストックマネジメントの計画を進めておる中で、将来的にこの料金制度の改定を検討いたしております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 私は先ほど喫緊の課題であると思っておりますとお伝えをいたしました。では、まず下水道の料金統一については、いつまでと思っておられますか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そういったストックマネジメントの計画に基づいて現在、作業

を行っております。年度はまだ現状では決まっております。できるだけ速やかに早く計画を実施ができるようにしたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 災害への備えということもありますが、上下水道施設の老朽化も深刻な問題となっております。人口減少、また地域の高齢化にも直面しており、丸々、利用者にその負担をしていただくのは難しい状況にあるのではないかと思います。それでも能登地方の今の現状を見るにつけても、この施設の改修といいますか、それは進めていかなければならないと私は強く思っております。そういった意味で、町民の皆さんに厳しい生活の中で自分たちの生活を維持するためにぎりぎりのバランスを取りながら納得いただける料金を設定しなければならないのではないのか、であるとすれば、今現実的に下水道料金の統一がなされていない、そういう不公平感がある中で皆さんがそれを納得していただけるのか、そのことを考えると、まず下水道料金の統一、町民の皆さんが持っておられるような不公平感をまずなくしていく、それは私はとても大事なことだと思います。その中で今のお返事は、私にとってはいつになるか分かりませんってというような、そんなふうにも聞こえてしまいます。それは私は何度も何度もアでお聞きした下水道施設の耐水化計画のことを、常任委員会でありますとか、また、この一般質問でありますとか何度も何度もお聞きしてまいりました。それがようやく令和 3 年度に計画が一応、完了している、それが実現に移されるのは令和 7 年度です。このように初めからこの計画が進む、計画を、計画をするといいますか、それに令和 3 年度よりも前にそういうお話があって、やっと計画をされて、それが実現に至るのが令和 7 年度です。特に今回のように料金統一、今まで合併から 19 年目を迎えると思いますが、それまでなされなかった料金統一、それがすぐすぐにできようとは思えません。であれば少しでも早く着手して何とか統一をしていく、その上で上下水道の料金の適正化、皆さんに老朽化の部分、それを解消していくために御負担をお願いしなければならない、そういった形を納得していただくためにも喫緊の課題であると思いますが、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この人口減少に伴う収入減、それから老朽化に伴う施設更新の費用、そういったいろんな観点から現在、見直しの作業を行っております。そういった中長期的な計画を立てた上で、基本的にはできたら令和 7 年度から 10 年度ぐらいまでには一本化を図っていきたいと考えております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） すみません。令和 7 年度から、来年ですよ、来年から始めて令和 10 年度まで合意形成にかかるというような認識でよろしいのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 令和 10 年度までにはそういう方向で考えております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） では、少しでも早く、令和 10 年度よりも早くしていただくことを願いながら、次に行かせていただきます。

2 番の地震災害に備えた耐震診断、耐震改修事業と土砂災害支援事業について各事業への取組の基本的な考え方と実績を問うというところで、町長の施政方針の中で、まず住宅の耐震化を促進するため簡易耐震診断を無償で行い、耐震改修費用の一部を助成しますというふうにおっしゃっておられました。また、これは継続事業としてたしか何年から始まって、どのような実績を残されているのでしょうか。また、次の土砂災害対策支援事業につきましては、土砂災害から住民の生命と財産を守るため、土砂災害特別警戒区域から区域外への住宅移転等に係る経費の一部を助成しますとなっております。こちらに対しましても、これも継続でずっとされていると思いますが、いつから始められて、それで年度ごとの実績と、それからどのような考え方でこの事業を始められたのかお伺いいたします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず耐震診断の実績です。直近 5 年間、平成 30 年から令和 4 年で 15 件であります。それから土砂災害対策支援事業につきましては、実績はありません。それから住宅移転に対する補助金、これは補助率が 3 分の 2、最大で補助金の 133 万 3,000 円ですが、これについては実績はないという、制度はそういうことでありますけど実績はありません。それから一般の住宅の耐震改修については、県が 100 万円、町は 20 万円、こういった補助制度を設けております。ただ、実績はありません。そういった状況であります。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 能登地震でも圧死といいますか、住宅倒壊で亡くなられた方は死亡者の中の 9 割を占めるようなことを新聞報道で知りました。やはり先ほど来、町長がおっしゃっておられました土砂災害、これはやはり怖いものがございます。そういった中で、住宅の耐震化、これを促進することはい大変いいことではないかと思っております。これに関しまして、また、次の土砂災害支援事業につきましても、これは町のほうからぜひともここはやってほしい、やらないといけない、そういったようなところの中で注意喚起といいますか、町民の方にどうですかというような呼びかけはなされているのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 最近は制度としてはあるわけです。制度ができたときにおいては、告知というか町広報などでさせていただいておりますが、ここ最近はやってない状況があります。今回のこの 1 月 1 日の地震、津波の状況を受けて改めてこういった制度の利用を呼びかけてまいります。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 特に土砂災害特別警戒区域というのは、私も防災マップを、すみません、ぺらぺらとめくっただけでございますが、その中でも結構たくさんいろんなところに随所に見られました。その中で、やはり町といたしましては、ここは本当に危ない、そういったところはやっぱり何か所か持っていращやるのではないかと思います。そこに住んでいращやる住民の皆さんに、これは区域外への住宅移転を進められる、そこにおられたらいつ土砂災害が起こるかも分からないから住宅移転をしましょうね、命や財産を守るためにはそこには危ないんですよっていう考え方が根底にあってこういうような事業を立ち上げられていると思うのですが、その辺のところに関してはどうでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 集落丸ごと危険区域の地区もあります。８割以上がそういう危険区域の集落もあります。そういったところの対応は改めて今後、現状の把握、そして告知。実は毎年防災の訓練があるんですけど、そういったときに土砂災害危険区域の大きな地図っていいですか、まず図面で分かるようにして対応をしてきたというそういう経緯もあります。改めてこの土砂災害危険区域、何よりも移転費用がもうとってもかかるということで移転に二の足を踏む、そういう状況もあるようであります。この移転建設した場合、約６００万円の補助が出るわけですけど、それでもなかなか厳しい、６００万円では家は建たんというふうなこともありますので、そういうそれぞれの皆さんのこの、何ていいますか、状況に応じて難しい面もあるかなと考えております。特に中山間地域の旧温泉エリアでは山の中の集落が多いわけです。そういったところに対して非常に呼びかけは必要だと思うんですけど、実際いざとなると資金面で非常に難しい面があるのかなと考えております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） 能登地方におきましても同じような高齢化という問題の中、もう自分たちしか住まないのに、次の後代は住まないのに今、耐震化住宅に変えるのか、そういったような問題があり、全く耐震化が進んでいない。そのために非常に大きな災害になってしまった。家屋が倒壊する、道路を塞ぐ、救援隊が行けない、そういったような問題も起こっております。そういった意味で耐震化の問題、それとこの土砂災害区域外への住宅移転、そういったものは本当に難しい話だとは思いますが、せっかくこのような支援事業を設けられている以上、やはりきちんと精査をされた中でどうだろうかという告知はされるべきだと思います。そうすることによって本当に自分たちがそういう場所に住んでいるのだと、そういった認識もまた新たになるのではないかと思います。

その次に行かせていただきます。浜坂地域の認定こども園整備の考え方についてという形で行かせていただきます。アの大庭認定こども園について耐震補強工事を先行すべきと考えるかどうかというのは、確かに１２月議会で私たちはといいますか、議会は

補正で認めました。耐震補強と基本計画について認めてまいりました。ただ、私はこの1月1日の状況を見ましたときに圧死、住宅倒壊で亡くなられた方が死亡者の9割を占めるその状態、それから新温泉町の中には町立で3つのこども園、そして小学校が6つ、中学校が2つございます。その中で唯一耐震補強を必要としているのは大庭認定こども園のみでございます。大庭認定こども園に至りましては、平成29年に耐震診断をされており、そこからなぜ今まで耐震補強の工事をされようとしなかったのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これまでの論議、同じことの繰り返しでありますけど、いろんな課題があり、この大庭のほうが少し遅れたと。もともと浜坂認定こども園が早期にできる、その後に大庭の改修というそういう方向性を打ち出しておりました。そういうことで現状に至っているということでもあります。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） 先ほど同僚議員の質問の中で時々刻々と状況は変わっていると、その変化に応じて政策であるとか、そういったものは変えていくべきではないのかというお話がありました。やはり今の町長の答弁は答弁になっていないのではないかと。じゃあ、浜坂認定こども園の問題が先だから大庭はその後だよ、そういうようなものなんですか。2園存続はもともと当局はずっと出してこられた。であれば今、目の前の大庭認定こども園の耐震補強、されるべきではないでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 12月定例会において予算を認めていただいております。耐震診断の結果出ましたら速やかに予算計上をさせていただいて、大庭認定こども園の早期工事を行ってまいります。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） 私は耐震補強を先行されるべきだと思っております。補正で認めさせていただいた計画を変更していただき耐震補強をとにかくされる、そういったやり方もあろうかと思います、その辺はいかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 御意見として賜っておきます。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） 御意見として承っておりますというのはしないということなので、次に行かせていただきます。

浜坂認定こども園については、現在地周辺での建て替えを基本にとありますが、その根拠をお伺いいたします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在地は既にかさ上げをしておりまして、津波にも大丈夫、過去四十数年間一度も浸水はありません。そういう実績、なおかつ将来的にここをどう活

用するか、将来ビジョンがまちづくりにおいていろんなメリットは大きいと考えております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） 私も現在地という公約を掲げて議会の場に出させていただきました。その私が公約を変えなければならないと思ったのには、あるお母さんのアンケートを読んだからであります。現在地では大雨などの危険がある以上、移転すべき。令和 3 年、鳥取の湖南学園の校舎が大雨で一瞬にして水につかったのを目の当たりにしている。浸水発生時に避難が必要な場所にこども園があるのはいかなものか。現在の地域の発展も大切だが子供の命を最優先にしていきたい。私は町長、このアンケートを読んだときに 1 人の母親として答えが見つかりませんでした。それが私が大きく公約を変える大きな起点となりました。町長でしたらこのお母さんの問いにどのように答えられますか。地域の発展よりも子供の命を最優先にしていきたい。私には答えは見つかりません。どうぞ町長、答えを教えてください。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 公約をころっと変えるのがいいかどうかは別にして、議員であれば事前の運動の中でそんなことは十分調べて立候補されたらよかったという具合に考えております。残念だなと思っております。それと、お母さんの問い、実は十分避難できるエリアなんですね。それから浸水想定区域って浜坂でも町内でもここばかりでない、三角の辺、あの周辺も浸水想定区域、僕は高校時代、自転車で通学してましたけど、ちょっと大雨になると浸水してました。道路が冠水してました。そういう状況があって、十分そういう論法でいくと浜坂には何も設置ができないということになります。戸田地域においても浸水想定区域、そういうエリアが広がっておるわけです。それよりもそういったふだんからの訓練、逃げれることも十分できるわけですし、それから今ある土地をどう将来展望を描いて生かしていくことができるか、ぜひそういうことをね考えてほしいと思うんです。1 点だけ水だけ水だけって、あそこは周辺の方々に聞いても保育園が浸水した、そんなことはないよと、周辺の方々もはっきり言っているわけですね。それをあたかも何か危険だ危険だと言って、逆に何かそういうあおるような方向性を打ち出しているような感じがしてならんわけです。ぜひやはりそういう全体像の中で町の保育園の在り方、将来の在り方、そういったことを十分に考えていただきたい、そう思っております。

○副議長（中村 茂君） 4 番、米田雅代君。

○議員（4 番 米田 雅代君） では、そのように返事をさせていただいて、そのお母さんが納得されるってということなんでしょうか。私は到底納得をいただけないと思っております。地域の発展も大切だが子供の命を最優先にしていきたい、そこに込められた思いを町長に酌んでいただけないのは非常に残念であります。2 月 22 日の「こちら町長室」の中で町長は兵庫県の予測っていうところの中で書いておられまして、また浜

坂で4.1メートルの予測が出ていますが、岸田川の河口付近では地形の関係で1.7メートルと半減の予測です。その次です。避難が一番というところの中で予測は予測ですと書かれております。先ほど私は、今回の避難をされた中で1,300人避難されてるけども、いろんな町内会長のお声ですとかいろんなことをお聞きした中で、自分で逃げる、自分や家族の命を守るのは早期避難が一番ですと町長、書かれておりますが、自分で避難をできない方がいらっしゃるんですよっていうことをお伝えしたつもりでございます。子供たちも一緒です。自分の力では避難することはできないんです。誰かの力が必要となるんです。そういった意味でこのお母さんがおっしゃる子供の命を最優先にさせていただきたい。町長はよくおっしゃられてます、議員も町長も町民の声の代弁者であると。では、このお母さんも町民のお一人だと思うのですが、それに対して私は今のお答えではとても真摯なお答えになっていないと思いますが、再度、これを最後にいたします、どのような思いでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 私が命を、何というか、非常に軽視しているというふうな御質問は避けていただきたい。我々はやはり安心・安全を守るためにやっているというつもりであります。予想という意味はふだんからのやはり訓練そういったものが必要だと、油断は禁物、そういう意味であります。自分で自分の命を守るというのはあくまでも大前提、そう思っております。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） では、大きい2番に参ります。子育て支援についてでございます。まず1番の高校生の通学費補助についてというところに行かせていただきます。現在、浜坂高校支援という名目で浜坂高校生の町民バス通学定期券の購入費用の4分の3を補助しております。浜坂高校支援ではなく、公平性という観点から高校生と保護者への支援と捉えるべきであると思います。今年度、夢が丘中学校で39名、浜坂中学校で86名巣立ってまいります。全員で125名です。その中で、大変申し訳ありません、この前、志願が出てたと思うんですが、たしか67名か69名かだったと思います。我が町は、本町は町長がいつもおっしゃっておりますが、平均所得が県下でも下のほうだということでおっしゃられていると思います。その中で、15歳までは、中学校卒業までは同じように保護者の方も支援をしていただいて、それが高校になった時点で浜坂高校の生徒には4分の3の通学費用を免除といいますか、支援しますよ、それ以外の高校生の方は自分で頑張ってくださいというのはいかなるものなのでしょうか。神戸市も公共交通機関を利用する神戸市内の高校生に対しては通学費の無償化を打ち立てました。そういった意味で、私はここはやはり15歳の子供たちの未来を閉ざすようなことはしていただきたくない。先ほどの答弁の中で浜坂高校の支援は人材育成の部分もあるとおっしゃいました。じゃあ、浜坂高校に行かない子供たちはその人材に当たらないのでしょうか。例えば但馬農高で但馬牛を育てている高校生のお嬢さんたちもおら

れます。また、香住高校の水産科に行き、これから漁業、水産業をしっかり支えていこうと思っている生徒たちもいます。

○副議長（中村 茂君） 発言中ですが時間がないので、整理して。

○議員（４番 米田 雅代君） その他いろいろ、いろんな未来に向かって高校生たちは頑張っております。その意味で本町の在住の高校生対象、高校生相当の方でいいと思いますが、対象に通学費全額補助を検討できないか、医療費と並び本町の子育て支援の核となりますが、どのようにお考えになりますか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員がお話にあるように公平性という点では問題があるかなと思っております。ただし、今回、昨日、実は浜高の卒業式があって行ってきました。73回目の卒業式、卒業生が55人、実は浜高始まって以来過去最低人数であります。この浜高がやはり存続し、地域の将来の人材育成の柱として様々な支援策を行っている、そういう状況であります。そこは浜高の支援事業の一環として受け取っていただきたい、そう思っております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） では、２番の高校生の居場所について。ＪＲやバスの運行減便やノー部活デー等の関係で生徒たちは居場所がなくて困っています。駅の待合室に机を置いたり、文ちゃん文庫に中高生が読みたくなるような雑誌を置くなどして居場所をつくることはできないでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 浜高に確認をして居場所づくりに困っているかという質問といえますか、聞き取りを学校のほうでしていただいたら特に困っていないという意見が多かったようです。ただ、町のにぎわい、そういった点で駅の中、文ちゃん文庫があるわけですけど、本の在り方については、やはり若い人、高校生、小中学生が読みたくなるような本が少ないと思っておりますので、そこは見直しを図っていきたいと考えております。

○副議長（中村 茂君） ４番、米田雅代君。

○議員（４番 米田 雅代君） まちづくりについての１番は、先ほどのおんせん天国の答弁をいただいたと思っておりますので、２番に行かせていただきます。

昨年１２月２日、世界農業遺産認定記念シンポジウムが夢ホールで開催されました。そこで夢が丘中学校の生徒たちの発表があり、その中で生徒たちは私たち大人へ問いかけました。①この世界遺産認定をどのように生かしていくのか、②私たちにどのような形でつないでくれるのか。私たち町政に携わる者はこの問いかけにきちんと答える責任があると思いますが、町長のお考えをお聞きします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この世界農業遺産の持つ意味は大きいと思っております。何よ

りも畜産農家の方々の前向きのすばらしい方向性ができたと思っております。畜産農家、若い人たちも跡を継いでいただいております。一方で、少頭飼いの2頭、3頭、5頭ぐらいの方々が減ってきているという、そういう残念な面もあります。そういった意味で地域の但馬牛を守り育てる、そういう視点でこの世界農業遺産を生かしていきたいと思っております。具体的には、SDGsとの関係で耕畜連携、この堆肥を生かすとか、そして教育面におけるふるさと教育の一環、そういった点も含めてこの世界農業遺産、但馬牛牧場公園を中心とした博物館もあるわけであります。そういったところを十分に今後、将来に生かす、そういう視点で取り組んでまいります。

○副議長（中村 茂君） 4番、米田雅代君。

○議員（4番 米田 雅代君） 私は、特に②番、私たちにどのような形でつないでくれるのかという問題につきましては、非常に大きな問いかけだと思っております。これからの新温泉町を担ってくる子供たちに対して町長はどのような期待を込められているでしょうか、その答弁を求めて私の一般質問といたします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この地域の宝を生かす、こういう視点で世界農業遺産、そういう取組を行ってまいりたいと思っております。牛に触ったことがない、そういう子供たちが多いようであります。今回も但馬牛の夢公社、レストラン楓において卒業の但馬牛を味わう、そういう機会もあったようでありますけど、より地域の子供たち、将来に向けてこの但馬牛、美方郡の但馬牛の意義、意味、それから発展性、そういったものを十分に子供たち、生徒たちに認識を深めていって町の活性化につなげていきたいと考えております。

○副議長（中村 茂君） これをもって米田雅代君の質問を終わります。

○副議長（中村 茂君） 暫時休憩いたします。13時まで。お疲れさまです。

午前11時50分休憩

午後 0時58分再開

○副議長（中村 茂君） それでは、少し早いですが休憩を閉じて会議を再開いたします。

次に、2番、西村龍平君の質問を許可いたします。

2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） それでは、許可いただきましたので、私、西村のほうから一般質問をさせていただきます。

まず、1番目の項目としまして、人口減対策ということで中長期の税収減、歳入減を見越した様々な計画の修正というところで質問をさせていただきます。(1)26年後に予測ということで出てきました2050年の人口が6,202人になった際の町の予算にお

ける税収、いわゆる歳入の減額の影響はどの程度かというところでございます。平成27年10月に新温泉町人口ビジョン及び新温泉町地方創生総合戦略の段階での国立社会保障・人口問題研究所が行った推計人口は、2050年の段階において7,255人ということでした。目標値といたしましては、1,000人ほど上回った8,287人というのが予測として上がってました。その5年後、今回、令和2年の国勢調査を基にした予測で、昨年12月に新聞報道でもございましたけども、2050年に6,202人の予測が出ました。この5年間で1,053人、人口減の予測が加速したというところになります。まずその印象と危機感ということで町長の今、思ってることをお聞かせください。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 年間に誕生する赤ちゃんは50人弱、そういう現状があります。平成17年は138人、3分の1近くになっております。それから一方で、亡くなる方、死亡される方が年間平均約230人、多い年、昨年は270人を超えております。一方で、社会動態、就職、大学進学、そういった関係で年々出るほうが圧倒的に、ずっとマイナス、出る方のほうが多い、平均すると大体100人から150人ぐらいは出ている、そういう状況であります。ただし、令和この4年度、令和4年ですね、社会動態、実はこれまで大体100人超減っていったわけですけど、この令和4年については初めて社会動態がプラスになりました。過去、合併以降、初めての状況であります。6人プラスということで100人超マイナスが一挙に6人増、そういう原因はまだ解明していないわけですけど、例えば湯村温泉ではかつて廃業された旅館などが再開されて、雇用の場としてかなり増えている、そういう現状もあります。いろんな要因があると思いますけど、一度きっちりと分析する必要があると考えております。新温泉町は魅力がたくさんある町であります。そういった町の魅力、温泉を軸にした観光、漁業、畜産、こういった町のすばらしい自然の環境を生かしていきたい、そう思っております。新聞報道では、2050年、5割以上、53%新温泉町は減少する、そういう予測がされました。いずれも神戸県庁から最も遠い新温泉町、香美町、佐用町、上郡町、こういったところが非常に厳しい状況があるわけです。こういった流れを少しでも食い止めるよう子育て、高齢者対策、きっちりとやっていきたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 危機感というのは十分感じていらっしゃると思うんですけども、6,202人の予測が出た段階で、前回の人口ビジョンの中で目標値ってということで8,287人ということで設定されてますけども、この目標値についてはまだ議論はされてないという感じでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 将来の推計人口、やはり現状、それから未来への投資、そういったものを十分勘案して、この人口対策、人口減対策から人口をどうして維持するか、

そういった施策をきっちりと論議をしていきたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 私もちっと数日前に知ったんですけども、2030年の崖という言葉って御存じですか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 2030年の崖。ちょっと知りません。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） これは2日前かな、日経新聞でもうたわれてましたけども、私もそこで初めて知ったんですけど、団塊の世代が戦後大量に生まれて人口ピラミッドが突出するんですけども、その息子が今度第二団塊世代ということで今度そこがまた突出した人口ピラミッドができます。次にその突出した人たちが産んだ子供がまだちょっとぽこっと人口ピラミッドが膨れるんですけども、その人たちが今度、いわゆる2030年には30代から40代に行ってしまうということで、そこから極端に人口が減るということで、そこからが出生数が極端に落ちるというふうに言われて、2030年を境に急激に日本の人口が落ち込むという意味です。これも数日前に新聞報道されましたけども、出生数が過去最低、日本全国ですね、これ町じゃなくて日本全国の出生数が70万人台ということで発表されましたけども、その中で、町長の施政方針演説の町長提案の説明書の中で新聞でも報道されましたけども、人口増を目指すということでコメントが新聞でも大きく載っていましたが、この辺りの今の社会情勢と人口増というところに関してのもう一度ちょっと確認、コメントをいただければと思うんですけども。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 全国市町村には人口減を前提とした、これまでから言われている上手に縮小する、そういう方向に向かっている町、一方で人口増を前提として施策をやっている町、そういう大きく2つに分かれるようであります。全国にも増えている町の特徴は、やはり若い人たちが働く場、若い人の働く場が増えているところが全国的に小さい町でもそういう傾向があるということをデータとして示されております。一方で、縮小される町、例えば学校の縮小、事業所の縮小、そういった縮小を大前提とした市町では、財政状況、それからこの町のそういった意見集約ですね、意見集約で非常に難しい面があるというふうな課題もあるようであります。それぞれの町の抱えた問題が違うわけですけど、新温泉町としてはすばらしい資源、産業もありますので、そういった伸びる余地はある、そう考えてやっていきたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 一般質問の1日目の防災のところでも町長、最悪のシナリオを考えて避難指示を出したということのコメントもあったとおり、人口減少についても最悪のシナリオで予算上考えていかないと駄目だということで、今回この質問も考えて質問させていただきたいと思っています。2050年に現在の人口から本当に6,0

00人以上の人口が減るといような想定が出ているわけなんですけども、本当にこの人口がこうなったとき、税収、いわゆる歳入への影響はどの程度が影響が出る、出るかということ予測されてますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 財政の試算では、令和4年度の決算と比べると約4億6,000万円減る、そういう試算を推計をいたしております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 4億6,000万円ですね。非常にこれ2050年時点ですよね、6,000名減った段階で。非常にこう何か軽微かなというふうに実は思いました。これなぜかという、生産年齢人口、いわゆる15歳から64歳が66%減少するという予測も出ています。これ、いわゆる実数で計算すると6,400人ぐらいいる要するに実労働人口、生産労働人口ですね、生産年齢人口、これが2,000人台までに落ちるということは4,200人減るとい予想が出るんですね。それが減るといいわゆる所得が減るので、個人住民税も大きく減少するという影響になると思うんですけども、4億6,000万円ということは非常に少ないと思うんですけども、これは総務課から出てきたということなんですかね。総務課から出てきたということなんですかね。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 財政っていうのは総務課のことです。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） どういう計算されたかということはちょっと知りたいところもあるんですけども、その辺りは今回の人口減の本当に6,000人人口が減って、生産人口も4,000人減ってその程度の影響でいくか。私は多分1人30万円ぐらいの、30万円減収するぐらいのインパクトあると思っていますので、15億円とかもっとそれぐらいのインパクトがあるかなってということで自分なりの計算では思っていました。じゃあ、その4億6,000万円減るといところで思ってるというところですね。分かりました。国からの救済は、今後もう全市町がそうになってしまうので期待できないと思われんですけども、この減収に対して自力での組立てが求められてくと想定して計画するべきと思っておりますが、この辺りの歳入減に関してのフォロー、バックアップの仕方とか、その辺りの考えはおありでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 歳入減に対するバックアップ、いろんな減少に伴って縮小という流れは考えられるわけですけど、増やすためにはやはり働く場、産業、経済の活性化、それから現在、将来的にはどうなるか分かりませんが、ふるさと納税などの利活用、こういったものがあると思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 並びにエクセルで表が出てまして、それをひもとくと、

直近の2025年の予測は1万1,944人という予測になってます。もう本当に来年の話です。となると、2020年の調査から1,374人の減少ということで今の人口住民台帳からしてもまた来年、相当数が人口予測の減少が、減るという予測が出てます。2030年は1万646人という予測になってまして、2030年、もう本当に6年後ですね、6年後には2,672人の減少ということになっています。私が予測で計算した状況でお話しすると町民税で多分5万円ぐらい、人口が1人当たり減ると、減収するんじゃないかというふうに計算してまして、地方交付税、これも35万円ぐらい減るんじゃないか、トータルすると40万円減るかなと思うんですけど、最低見ても人口1人減る当たり30万円ぐらいの減収が起こるんじゃないかというふうに私の想定はしてます。現状の人口減少からすると2025年の予測で4億円、現状からすると減る。それと、2050年の予測でいうと18億円減るというふうに私なりには、総務課と全然関係ないです、私なりの計算で、過去の経費をずっと見て計算した上でそういうのをちょっと見てとれたんですけども、その減るところが今後、減らさないというところの何かムーブメントとか意思は重要だと思うんですけども、最悪を見据えるという上では、そういった喫緊の課題として今、支出しているものをどれかをやめなければならない部分が生じると思うんですけども、その辺りの感じ方というか、その辺りはどういうふうに思ってるんでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町は財政計画、それから個別の施設に関する管理計画、これを長期計画を持っております。こういった計画に基づいて廃止すべきところを廃止、充実すべきところは充実、そういう方針を立てております。この公共施設等の総合管理計画、こういったものを基本に将来の計画を実施してまいります。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 次の質問がまさにそこなんですけども、公共施設の整備と歳出の削減というところを質問させていただきます。

まず、橋梁、橋ですね、を含む道路施設の老朽化による整備は将来的に大きな課題となっておりまして、公共施設等総合管理計画をもっと掘り下げて、修繕が必要な施設の早期着手などを将来に持ち越さない計画に修正する必要があるかということでお伺いさせていただきます。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、国土強靱化施策、国のほうも老朽化施設、橋など早期に改修するというところで、本町においても優先順位を決めて橋などの改修計画を実施をいたしております。本町には、橋梁、橋が、町管理の橋が約370ほどあります。また、道路延長が約400キロあると言われております。そういった維持管理、大変な面があると思いますし、いずれ橋についても約15年、20年後には6割の橋が50年以上になるというそういう状況もあります。そういった中、この施設、道路維持管理、大変費

用も要りますが、国の国土強靱化施策の制度を有効活用して順次、定期点検を行い、修繕を行ってまいります。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） おっしゃるとおりで総合計画にもそれが明記されておりまして、町の総合計画とともにこの計画においては人口ビジョンも考慮するような計画になっています。人口ビジョンを考慮するということで3年後の令和9年から第2期計画に入る計画になっております。今、第1期計画の途中ということなんですけども、この人口減の予測ができた段階で、最悪のケースを想定するという部分も含めて1,141路線、これが町道になると思います。橋で372ある橋、11年後の令和17年には219の橋が50年を過ぎる老朽化した橋と言われる時代がまさに11年後にやってまいります。要するに税収が減る、でも、これは改修しないと駄目だという逆ざやが出てくる段階においては、もっと早期にこの人口予測、人口ビジョンも考慮する総合計画になっているので、その人口ビジョンも踏まえて計画を修正する、もしくは9年の第2期を待って、そこへ埋め込むというのもあるんですけども、私はそれを前倒ししてでも早めに気づくところは直していくというところの早期着手というのが必要だと思ってるんですけども、その辺いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 財源を道路とか橋のみではありません、いろんな高齢化、少子化対策、そういったものに使う必要があると思っております。バランスのよいお金の使い方、こういう中でこの老朽化、インフラ整備のお金、有効に使っていきたいと思っております。やはりさっきも言ったように国土強靱化の制度、補助制度、こういったものを有効に利用したい、そう思っております。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） この、いわゆる橋とかあたりは、やはり優先順位では上位にあるべきだと私は思っております、本当に台風とか豪雨とか地震等の自然災害のときに真っ先に崩壊して、死者とか出るのはそういった橋が崩れてしまう、流れてしまうということだと思っております。そういったところの自然災害、今も本当にどこで豪雨が来てもおかしくない状況なんですけども、自然災害に絶え得る橋の検証というのはきっちりできてるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 目視ではありますけど、施設、橋の点検を定期的に行っております。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） それだけではなくて、例えば今回の1月の大雪のときに消雪の水が出ないとかですね、町内に幾つか私の近くの町でもあったんですけども、そういった消雪設備の請願を町内会で上げて、7年たっても全くやってくれないという

ところの町もあります。そういったところの総合的な道路施設についての優先順位、この辺り、橋も含めてですね、その辺りの優先順位というのは上位に私はするべきだと思っていて、今現在、予算に余裕があるかどうかあれなんですけども、人口が減って税収が減ることが想定されている上では、早期着手を早めにそういったところを着手していくということが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員おっしゃるとおりだと思っております。一方で、そういう消雪にしても、例えば地下水の減少につながってほかの消雪に影響が出るとか、いろんな判断の中で事業をやっていない、そういう面もあります。それぞれお金の問題もあるわけですけど、それ以外の問題もあって、なかなか要望に応えることができていない、そういう背景があると思っておりますが、議員のおっしゃるとおり、やはり道路と、何ていいますか、生活の最も重要な基盤であると思っておりますので、そこは十分配慮したいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） ぜひ、災害のときには、橋とかいうところは非常に重要なポイントになると思いますので、その辺りも踏まえて道路施設、よろしく願いしたいと思います。

続いて、町の保有施設、旧の小学校跡地ですとか、出張診療所等については、今後の修繕経費も個別の管理計画を見ると見込まれているところもあります。今後の需要を予測した英断というのが必要となってくると思いますが、再編計画を検討する意思もしくは計画、そういったものはありますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、診療所においては4診療所はあります。それぞれの地域の医療、安心・安全、健康を守る、そういう視点で維持をさせていただいております。この高齢化の中で利用が減っている、そういう少子化の中で利用減少もあるわけですが、今年度、照来診療所、八田診療所、それから歯科診療所ともに、微増もしくは横ばいというふうなことで、これまでずっと減っておったんですけど、少しずつ増えているような、そういう傾向もあります。採算面という課題もあるわけですけど、やはり命を守る、健康を守る、町民のそういう命を安心・安全という点で、今後とも維持をしていく予定であります。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 今、出てきました医療系、照来診療所、八田診療所、この2つについては、双方とも約40年の建物の経過があります。それにプラス、目に見えないんですけども、そこに医師住宅、お医者さんのための住宅というのが建っていることです。ですので、そういった建物というのは、両方とも老朽化が今後進んで、また修繕、そういったところも出てくると思います。持つだけでも経費がかかってくる

というところもあると思いますし、歯科診療所については、修繕の見直しということで修繕に総合計画の中では、6,000万円の予算がかかるであろうという修繕費用が予定されてます。医師住宅についても、これも歯科診療所も約35年がたってます。ここについては、今後の存続はもう町長としては、特に今後の計画はなく、現状どおり進めていくというところで思ってるということによろしいのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 診療所関係については、従来どおりきっちりと維持をする必要があると思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 歯科診療所についてなんですけども、参考に。昨日、おとといの日本海新聞に出てたんですけども、鳥取の日南病院あり方検討委員会ということの答申が出てました。そこには、日南病院に歯科を新設をするというところで答申を出したようです。ですので、歯科診療所についても、浜坂病院に持っていくということは、将来あり得るかなと私思ったんですけども、印象いかがですか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 即答はできません。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） その情報を基に、また、検討の一つの素材として上げていただければと思います。そうすると、歯科診療所の建物とかその辺りが、ないよりはあったほうがいいという議論になると、全部あったほうがいいのは当たり前なんですけども、先細りしていく歳入については、やっぱり何かの歳出もしくは統合、そういったところも今後、必要になってくると思うので、その辺りは一つの案として議論にのせていただければ幸いです。

それと、スポーツ系です。旧照来小学校、旧八田中学校の体育館施設は、廃止を検討の予定でありましたけども、今現状、まだ使っているということなんですけど、今後の計画はどうでしょうか。

○町長（西村 銀三君） ちょっとお待ちください。

○副議長（中村 茂君） はい。

○議員（2番 西村 龍平君） 23ページです。23ページ。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 旧照来小学校においては、屋内スポーツ施設、体育館の跡を廃止を検討という予定をしております。それから、廃止除去であります。旧八田中学校においても、同じように廃止を検討、除去を予定を計画をいたしております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 町長、多分違いますね。検討というのは、2021年から2022年に廃止を検討なので、今、24年度に入り始めますので、検討をする予定

ではないです。廃止せずに存続の検討なのかなと思ったんですけども、担当課に振ってもらってもいいですけども。担当課の方に答えていただいてもいいですけど。

○町長（西村 銀三君） 担当課長がお答えします。

○副議長（中村 茂君） 西脇生涯教育課長。

○生涯教育課長（西脇 一行君） 御指摘ありました旧八田中学校の体育館、それから旧照来小学校の屋内体育施設等につきましては、公共施設管理計画の中では22年で検討ということでありましたけども、地域の要望がやはり使用したいという要望が今、根強くあります。そこを丁寧に、地域との関わりの中で聞き取りながら、実際、照来小学校の屋内体育館につきましては、野球、それから放課後子ども教室等でも使っておりまして、そこは地域とともに検討します。ただ、大きな修繕はしないというような方向ではありますので、行く行くは廃止の方向ではあることには変わりはないと思います。また、八田中学校の屋内施設につきましても、地域の要望を聞きながら、地域のほうに使用いただくような形、スポーツ施設として外すという方向性を、やはりそのまま公共管理施設計画に基づいて検討してまいりたいと思ってます。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 特に廃止したいという意味で言ってるのではなくて、町の負担が先行き必ず逼迫してくるので、町にもう譲るとか、いろんな方策があると思うので、そういったところでうまくその辺りをやっていただければということで、町に負担ができるだけ少なくなるような形でやっていってもらえればと思いますし、こういったところ、ちょっと1つずつ細かく見ていくのが必要かなというふうに思ってます。

あと、浜坂のB&G海洋センターも、令和8年に修繕の検討で1億円というような資料が出てます。健康公園についても、令和7年より修繕の検討ということで、ここは8億円という数字も総合計画の中に出てます。そんな余力があるのかどうかというところも含めて、今後の計画の変更というのは考えられますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 御指摘のとおり、再度、この計画についての見直しっていいですか、現状をきっちり把握して将来のどうあるべきか、そういう方向性を打ち出す必要があると思います。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ぜひ、1件1件細かく見ていただいて、本当に今後の歳入減に向けた歳出減というのが必要になってくると思うので、そういった固有資産、町有資産についての見方を、ぜひ今後、細かく見ていってもらえるかと思います。

次に、すみません、歳入減に伴う歳出減は必須であり、経費削減の優先順位を問うところなんです。直近も含めて、中長期的に歳出減は必須となりますけども、優先順位を含めた具体的な方針というのは立ててらっしゃいますでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 老朽化などに伴う町有施設の改修修繕等の優先順位を検討し、負担の平準化を図り、安定した運営ができるよう考えております。今後とも、経常経費の削減、公営企業に対する基準外繰出の縮減等取組を行い、一方で、ふるさと納税など自主財源の確保に力を入れてまいります。

歳入、歳出のバランスを図り、感染症対策、コロナなどもあったんですけど、こういった多様化、激甚化する災害への備えなどきっちりと見据えて、今後の財政運営を行ってまいります。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 1点お聞きしたかったのが、この優先順位の中で、町の職員の数をどう考えていますでしょうか。今、一生懸命言われてる自治体D X、トランスフォーメーション並びにA Iという非常に便利なサービスも出てきてます。A Iの導入とかによる省力化ということで、これだけ6,000人、人口が減って、先日、委員会のほうでは、職員数は減らさない、現状維持ということで報告がありましたけども、こういったのを活用して、やっぱり少なくすべきだと思いますけども、この職員数についての考え方はいかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状、現場を見ますと、かなり残業を強いられている。国、県からのいろんな資料提供を求められる。それから、いろんな施策に対して、補助制度を利用するためにいろんな資料づくり、こういったものに膨大な時間とエネルギーがかかっている。現状でも、非常に人手不足といいますか、大変厳しい状況があります。現在、約250名近い正規職員、それから300人近い会計年度任用職員、こういった現状があるわけですけど、非常に、議員御指摘のように、業務の、やはり本当に、無駄な業務はないと思うんですけど、業務の見直しといいますか、本当にやっていかないとかなかなか立ち行かなくなる、そういう状況があります。それから、昨日、おとといの技術職員、今朝ですか、御質問があったんですけど、技術系の職員が少ない、事業進捗に大きく影響している、そういうことも言えます。職員の在り方については課題が多いなと。一方で、国からは労働時間、働き方改革を求められている、そういうこともあります。職員の働き方を、やはり残業をしないような、そういうしなくても運営できるような、そういう形をできるだけ構築をしていきたいと考えております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 歳出を減らすというところについては、職員数の考え方も、今後の方向性は出したほうがいいというふうに思っておりますし、今、言いましたD X、トランスフォーメーション、それとA I導入が、ずっと企画書を書くにしても、一瞬で企画書ができてしまうというC h a t G P Tとか、そういったところの利用、そういったところも含めて業務改革を図っていかないと、人は絶対、今の現状を見てしまうと減らすことはできないと思うので、その辺りはそういった、要するにI Pを使った

省力化ということ、ぜひ今後の議論にも入れていただきたいというふうに思ってます。

並びに、建物のところで、本庁舎が建て替え含めた8.5億円、温泉総合支所7,000万円ということで、修繕、あと老朽化に対しての修繕ということで計画が上がってますけども、この庁舎の考え方はいかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この支所とかささゆり、施設、年数がたって老朽化、今回エアコンの改修を予定いたしております。必要最低限の改修で維持はしていきたいと考えております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ぜひ、建て替えて、すごいものを建てるとかいうような計画は、到底今の財政、できないと思うので、そういったところで現状を維持しながらっていうところもあるんですけども、もし、私がいつも言ってるような、浜坂地区の小学校の再編成ができるのであれば、その小学校の跡地を使って総合庁舎にされてる事例が奈良県にあります。奈良県の旧耳成高等学校というところが、高等学校をなくして奈良県の橿原総合庁舎、5つの支舎が集まった支所に生まれ変わってます。ですので、そういったところも、今後の小学校の再編で、ああいった小学校の校舎を役場として使っていくという考え方もあると思いますので、一つの提案として念頭に置いていただければと思います。これで、ちょっとここは終わらせていただきます。

3つ目、ふるさと納税の増加ということで、先ほども話ありましたけども、歳入が減っていく段階でこれを補填するのは、私もふるさと納税は必須のアイテムだと思っています。個人型と企業版の二つの寄附を伸ばすための、次年度の具体的方針等、促進策をお願いします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、個人のふるさと納税であります。これまで、さとふるかそういう事業者をメインに運営をしていただいておりますが、見直しの案としては、役場が今回、直営でできるだけサイト運営をやっていききたい、そう思っております。そういったサイト運営ノウハウの蓄積、それからスタッフの養成、そこに力を入れてまいります。ふるさと納税を通じ、この町に興味を持っていただきSNS等を使った情報提供を行い、交流の機会を増やし、今後の関係人口が増えるよう頑張っております。

それから、企業版については、課題型ワーケーションとして、数社が町内で課題探索や解決に係る取組を行っております。こういった企業を、企業版ふるさと納税の候補としてふるさと納税を依頼していきたい、そう思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） そうですね。まず、令和6年度の目標がもともと5億円だったはずなんですけども、目標が4億円ということで1億円下がりました。この目標の下方修正、この辺りの要因をお聞かせください。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、今年度が約3億円という、そういう現実があります。できるだけ現実を見据えた上で、より高い、より近い4億円を目標にしました。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 町長、易しいと思います。もっと高い目標を、私はできるというふうに思ってます。これは、企業版がいわゆる今、たしか50万円だけだと思って、1社だけだと思ってますので、ここは何度も言うようですが、徳島県の神山町のプロジェクト、高等専門学校、10億円集めてるとか、これ4,000人ぐらいの町なんですけども、そういったところあるので、返礼型の個人型ではなくて、企業版で伸ばせば私はいいかなというふうに、前々から思ってます。もっと強気でいってもらったらいいいかなというふうに思います。個人型では、隣の香美町をいつも上げて、もう耳にたこだと思えますけども、大相撲の懸賞の垂れ幕で予算105万円で、場所中の効果、これが8,000万円実額があって、前年比20%増ということで効果が出てます。次年度は、国技館でもやるということで出てますし、また、京セラドームにも広告を出すということで、令和5年度で速報値が出ましたけども、11億7,000万円の速報値が香美町から出ております。これは去年の実績ですね。令和6年の目標が13億円ということで出てますけども、これ聞いて上方修正は難しいでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 香美町のことを勉強させてもらわないけんと思っております。本町も、泉佐野市に職員を派遣して、今年度、勉強をさせていただいております。そういった、ふるさと納税に特に力を入れている町、そういったところを参考にして、何とか目標はクリアしたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） もう4億円ということで、この町長提案の説明でもありましたけども、ぜひ、裏では5億円を目指していただくような動きを取っていただきたいと思いますので、期待をしておきたいと思えます。企業版での目標額というのは、もう決められましたでしょうか。

○町長（西村 銀三君） 決めてない……。

○副議長（中村 茂君） プロジェクト。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 企業版の目標を決めて、金額の目標は定めていませんが、実は来年度、新温泉町出身の、ある程度頑張っている事業所を訪問して、町広報に掲載したり、それから町の状況をお話ししたり、そして企業版ふるさと納税をお願いしたりと、そういう具体的なトップセールスを考えております。そういうことで、できるだけ企業版を増やしていきたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（２番 西村 龍平君） ちょっと、それを言いたかったので、ぜひ町長がトップセールスを頑張っていたらいてる企業をしていただく、町長がもう動けなければ担当課、企画課長か副町長かっていうところなんですけども、ぜひ営業に行ってもらえればと思っていますので、ぜひ期待をしておきたいと思います。企業版のプロジェクトの作成状況を聞きたいのですが、プロジェクトということでは、幾つかつくってらっしゃるんでしょうか。

○副議長（中村 茂君） プロジェクトはいるで、たしかな。
西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、この行政と企業との連携の中で、両方がウィン・ウィンの関係になるような、そういうプロジェクトを検討しております。現在２社と協議を行っております。

○副議長（中村 茂君） ２番、西村龍平君。

○議員（２番 西村 龍平君） 前々から、ちょっと私も言ってるんですけども、プロジェクトというのは、町の課題を整備が必要な新規事業にプロジェクトを兼ね合わせるのが一番、それをつくってその関係の企業を当たっていくのが一番いいと思ってますので、例えば旧の温泉高校の跡地利用をどうするかというプロジェクトをつくって、そこに該当する企業を当てるとか、もしくは鹿がいっぱい捕れてるので、鹿肉の加工商品を作るというプロジェクトをつくって、そこに該当する鹿肉の加工業者を当たるとか、いうようなところの町の課題にスポットを当てて、プロジェクトを立てていただければというふうに思ってます。

あとは、温泉を使った地熱発電とかですね。そういったところも合致すると思うので、ぜひ課題をプロジェクトにするということをちょっと考えてください。よろしくお願いします。

次に参ります。外国人労働者の誘致策ということで、２０５０年に人口が半減する予測、ずっと言ってきましたけど、生産年齢人口も同じ状況の６６％減ということで、２１８０人の約４、２００名減になります。数年先には、外国人労働者の確保は、主要都市も含めた争奪戦が想定がされます。先んじて、手を打つための中長期計画を検討する意思はありませんでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この、人手の不足の問題、全国的に現在外国人雇用を増やして、外国の方にいろんな面で活躍をといるそういう流れがあります。本町においても、商工会の調べでは、現在、旅館や縫製工場を中心に約７１名、それから漁協関係、インドネシアの方が４３名いらっしゃいます。そういう状況があるわけです。そういったことで、中長期計画、現在、こういった外国人労働者のそういった雇用の計画というものは持っていないわけですが、町の人口減少に伴い、ますます特に介護などの部門では厳しい面が想定されますので、一度こういった計画、検討をしてみたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） いいですか。この労働人口の減少というのは、我が町は本当に特筆的に減っていくんですけども、これは我が町だけの問題ではなくて、日本全国の問題です。ですので、この労働力が他の町とか、例えば鳥取から取れるとかっていうものでもなくて、全部が減っていくので、どこからも奪い取るパイがないという市場になってきます。となると、やはり外国人労働者というのは、これからのいろんな形で門戸を国も開いていきますので、このところが一番のポイントになると思いますし、これから各市町村も中長期の計画を立てていくと思います。逆に、東南アジア、シンガポールとかタイとかマレーシア、インドネシア等が人口が増え続けてます。ベトナムなんかは、8,000万人だったのがもう急に1億人超えると言われるぐらい、人が今度は向こうが余ってきてます。となると、そこにターゲットを当てた労働者の誘致合戦、これを先手を打つ必要が絶対あると思ってます。その辺りの中長期計画、この辺り検討の意思をぜひ表明いただければと思うんですが、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 商工観光課を中心に、御意見、参考にさせていただきながら、今後の在り方を検討いたします。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） ちなみに、新日本海新聞の新春インタビューで、外国人を雇用する事務所を金銭面で支援するとコメントされてますけども、12月議会、前回の議会で私が一般質問では、香美町の制度がそれやってるんですけども、認識もなかったと思うんですけども、今年度は考えているかと思って予算書見たんですけども、新規で上がってないので、この辺りは考えていらっしゃるのでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 特に、介護老人施設を中心に、香美町ではそういった制度を設けております。新温泉町、実は今回ある事業所、介護の事業所から要望があったんですけど検討させていただきました。ちょっと継続で考えております。来年度は、今のところ考えていない。

○議員（2 番 西村 龍平君） ない。

○町長（西村 銀三君） はい。

○副議長（中村 茂君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 残念なんですけども、ここを先手を打つことによって、労働者の確保ができると。本当に喫緊の課題では、漁船が出ないかもしれないという危機感もあるので、その辺りはぜひ、本当に中長期計画、喫緊のところはまだ影響は出ないかもしれませんが、中長期計画の中でやっていただければと思います。

続いて、第2項目めに移ります。交流人口の拡大ということで、150万人に向けた中長期計画ということで御質問させていただきます。令和5年度の推計と成果と課題とい

うことで、日本全国の宿泊者総数と訪日外国人の旅行者の数は、コロナ前の２０１９年に戻っております。新温泉町の令和５年度の推計はいかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 令和５年度宿泊者数全体では、１２月末現在、浜坂エリア２万２,０２７人で、前年より５.２％減少であります。七釜温泉は５,２３７人で、２４％減少しました。湯村温泉は１２万９,５４６人で、４.８％増えております。七釜温泉の減少が大きいようであります。

それから、カニシーズンであったんですけど、これもなかなか回復がなされていない、そういう状況であります。湯村温泉が増えたのは、廃業されていた旅館が再開営業を始めた、そういった関係で少し増えたと考えております。

○副議長（中村 茂君） ２番、西村龍平君。

○議員（２番 西村 龍平君） 私がお聞きしたのは、コロナ前の２０１９年比ということなんですけども、多分、湯村は９４％だと思います。コロナ前までは、多分戻ってないと思います。浜坂は、かなり減ってると思うんですけども、コロナ前比ということで質問したつもりだったんですけども、その推計は持っていらっしゃいますかね。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 課長のほうで分かったら答弁をしてもらいます。

○副議長（中村 茂君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） すみません。今、手元に数字を持っておりませんが、ほぼ９割台の戻りと考えております。議員、おっしゃるように、浜坂、七釜の戻りがあり芳しくないと考えております。

○副議長（中村 茂君） ２番、西村龍平君。

○議員（２番 西村 龍平君） 委員会でいただいているので、それを元に私も話してるので９割台なのはもう間違いなく、ですので、何が言いたいかというと、全国のスタンダードに対して、新温泉町はやはり１０％ぐらい遅れているということになります。これは多分、インバウンドもしかりだと思いますけども、その推計を基にした全国平均に追いつくんだということで、令和６年度の具体的な方針等、観光政策及び具体的な戦略は何かありますでしょうか。２点目の質問です。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 具体的戦略として、長期的全体的に観光インフラの充実、地域の機運、醸成を含め、ユニバーサルツーリズムの推進を、現在、図っております。客層の高齢化、また観光、住民生活の距離が近い当地において、観光の持続性を確保するために、ユニバーサルツーリズムの力を入れてまいります。

それから、観光業の従事者、体験コンテンツの提供をはじめ、担い手不足は深刻になっております。課題解決型ワーケーションを切り口に、引き続き外部人材、都市の企業との関係性を図っていきたいと思います。

それから、令和6年度、万博が前年度年となります。このフィールドパビリオンのコンテンツなりこういったものをきっちりと通して、インバウンド事業など受入れ環境を進めていきたいと考えております。

また、麒麟のまちのDMO、こういった麒麟のまちとの連携事業も含めて、このインバウンドの需要を高めていきたい、そう考えております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） そういった回答が返ってくるかなと思ったんですけども、今、言われたのは、いわゆる中長期的な政策になります。令和6年度の数字を増やす、要するに今年の数字を増やすための具体的な方針、観光施策というのは何か特筆的なものはありますか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 新温泉町の資源をより生かすためには、やはりPRが必要だという具合に考えております。昨日も、この特別観光大使を任命を1名に受けていただいた、そういう状況があります。新温泉町の知名度というのは極めて低い。ほとんど知ってない方が関東、それから大阪でも知っていない、そういう方が多いということも聞いております。何よりも、新温泉町の魅力をもっともっとPRしていく、こういったところに力を入れていきたいと思っております。実際、来ていただいた方々には、非常に満足度が高いということを実感いたしておりますし、たくさんそういう意見を聞いておりますので、より町の魅力、発信力を高めていきたいと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私の考え述べさせていただくと、もう一番効果がすぐ何かあれば出てくるのが、インバウンドになってくると思います。

2023年で2,506万人の外国人がこっち来てます。10月から1月の統計は、コロナ前の2019年を上回る値が出てます。1位の国が韓国700万人、2位の国が友好で提携してます台湾、これが420万人、3番、4番で中国、香港、あと5番目がアメリカ、6番目にタイが入ってきます。これ日本全国のインバウンドの推計です。これが100万人来てます。JNTOという日本観光協会の最新調査で行った段階では、このアジアにおいての1番目的、来る目的が、美食いわゆるグルメ、これが1番です。まさに、新温泉町に合致したキーワードだと私は思ってます、カニとかホタルイカとか但馬牛、そういったところが合致すると思います。

あと、地方のみの訪問希望ということで、今回、日本観光協会がアンケートを取っています。要するに、大都市にはもう行かなくていいと。地方に行きたいというところの訪問希望でいうと、タイが45%の方が日本に行きたいという方の45%が、もう大都市は行かなくて地方に行きたいというふうに言ってるのが45%、これはトップです。次に並んでくるのが台湾、これも日本に行きたいと言う方の中の34%が、もう大都市はいいと、地方だけに行きたいというような希望があります。2024年の訪日インバ

ウンドの予測、JTBがやっているんですけども、3,310万人、いわゆる今までの訪日インバウンドの数の中では過去最高になります。旅行中の平均消費額は、去年で20万円と言われてます。20万円というのは、これは食事、お土産、体験そういったのに使ったお金ということで、宿泊とかそういうのは入ってません。となると、もしこの人たちを新温泉町に誘致できた段階では日帰りはありません。みんな宿泊します。となると、多分3万円から4万円を町で落とす人たちが来てくれるということを考えると、例えばですけど、1万人インバウンドを今回この目標掲げて、一生懸命取り組んで当たった場合には、3億円から4億円の経済効果があるというところになりますので、この辺りはぜひ、今年度の数字として当たっていくべきかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） さすがは以前の職を生かされた御提案だと思います。そういった試算ができると思いますので、町の魅力を実際の経済活動に生かすように考えていきたいと思います。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） となると、やはり関係人口でなくて、交流人口の150万人という町長が上げられてる数字、私もこの数字大好きなんですけど、150万人の達成に向けたKPIの設定ということが重要になってくると思ってます。観光客が来訪することによる経済効果は、今言ったとおり大きく、現時点の100万人だと思いますから、50万人が増えると町への経済効果は25億円、1人当たり平均、宿泊も日帰りも含めて5,000円が町でお金を落としてくれると考えたと、25億円の効果があると思ってます。JR問題も同じで、質も大切なんですけどもやはり量が大切だというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町のにぎわいは人がつくる。基本的にはやっぱり人の動き、そういったものがベースにあるという具合に考えております。人が来ないような町には発展はないと思っておりますので、そういった点、何とか150万人が達成できるように取組を強化をしてまいりたいと思っております。量プラス質、最近、極端な消費の流れが非常に高額な消費を好む方、一方で価格、値段に敏感な方、二極分化が進んでおるようであります。そういった点でも、まずは両方追うのもいいんですけど、とにかくたくさんの人に来ていただく、そういう方向性が大事だと思っております。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ぜひ、量が見込めるツーリズムを開発ということで、そこに町も協力をして、民間と一緒に開拓をいただければと思いますので、課題型ワークショップに旗印のように皆さん言ってますけども、これも大事だと思います。企業型のふるさと納税、ここも絡んできますので、これもやりつつ、ただ大項目は量を見込める

ツーリズム開発、それとIP戦略を含めた抜本的な販売促進計画を作成すべきというふうに思いますけども、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） とてもいい御意見だと思っておりますので、そういった点、研究したいと思います。

○副議長（中村 茂君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 答弁の補足をさせていただきます。今、企業版ふるさと納税の話が出ましたので、少し戻りまして新年度の企業版ふるさと納税の予算の目標といたしましては500万円ということで、昨年の予算から比べたら大幅な高い目標設定を掲げておるところでございます。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 1億円とかいう話が出てくるといったんですけど。ちょっと非常に残念なんですけど、もっと高い目標を目指していただければありがたいなと思います。再考いただける機会があったら、ぜひ高い目標をぜひお待ちしております。

並びに、今の量が見込めるツーリズム開発ということなんですけども、ぜひ活用いただきたいのはやはり祭り、この間も海鮮まつりありましたけども、カニ・ほたるいか祭り、川下祭り、こういったところもあります。こういったところを、本当に旅行会社の発信力を通じて、クラブツーリズムとかトラピックスとか、そういったところが商品をつくることによって店頭に並んで、たまには新聞広告に載ると、そこに申し込まない人の目にも触れてくるといいうところもあるので、ぜひ旅行代理店のそういうメディア関係、その辺はうまく使ってPRいただければ底上げになってきて、そこが増えると交流人口も増えてくると思うので、ぜひそういったところとか、着地商品とか、伝統文化のまち歩きとか、そういったところに着手いただければと思います。

続いて、年次的、1年ごとの目標設定は必須だと思っております、各観光協会の評価基準にも、各年の交流人口目標達成というのを町と共有化をして、令和12年、2030年に150万人を達成する目標設定をしてはいかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 目標は、極めて大事だと思っております。令和12年と言わずに前倒しで実行できるよう頑張ります。

○副議長（中村 茂君） 時間が迫っておりますので、整理してお願いします。

○議員（2番 西村 龍平君） ぜひ、前向きな目標設定等、ぜひちょっと委員会のほうでまた報告をいただければと思っておりますので、この数字がやはりないと、観光協会にも実はこの目標感伝わってないので、観光協会の大義は、私は観光協会のミッションは交流人口の拡大だと思っておりますので、イベントを遂行してやる先に交流人口の拡大があるということを、ぜひ共通認識で町も観光協会も一緒にやっていければと思っておりますので、ぜひその設定を、例えば2026年、7年までに150万人やるんだというよう

な強い意志も出してもいいと思ってますので、そういったところを観光協会とも共有していただければと思います。

最後の項目です。観光客向けの町保有施設の存続ということで、リフレッシュ館、松の湯、ユートピア浜坂、ジオパーク館の観光系施設は、毎年多額の町税で補填されていますが、市場ニーズと時代トレンドを鑑みた抜本的な計画の再構築が必要で、中長期ビジョンはどうなっているか、お伺いいたします。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） まず、リフレッシュであります。現在、社長を中心に見直し検討を行っております。施設、プールも含め、施設の魅力アップを図っていく、充実を図る、そういう方向であります。それから、ジオパーク館は山陰海岸のちょうど中心部分であります。これは現在、世界ジオパークの認定がイエローであります、きっちりと維持をしなければならないと考えております。イエローを払拭するためにも、ジオパーク、引き続き財政支援を行ってまいります。それから松の湯、現在、夏の海水浴客、キャンプのお客様、それから地域の方々、そういった方々に利用をしていただいておりますが、施設がかなり老朽化しておりますので、そういった改修の必要性を感じております。ユートピア浜坂は、一昨年、1億円以上の改修費用をかけて改修をさせていただきました。引き続いて、入浴料金の値上げなどもさせていただいた背景がありますが、地域、それから近隣の方々、観光客の利用の推進も含めて、引き続いて維持継続をしておりますが、温泉施設の一環として重要な施設、健康の施設として重要と考えております。以上のような状況であります。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） リフレッシュ館については、以前質問をしたときに、改修に8億円かかるというふうに言われてます。この8億円の内訳については、またお聞きしたいんですけども、また並びに、毎年3,000万円を超える税金が投入されているというところになります。私は、ぜひここは、町民プールのところと温浴施設、ここは分けて考えるべきと思ってまして、温浴施設についてはやはり時代のトレンドとか、市場ニーズ、ここに合致してるかどうかを根本的に考えないと、多分難しいんじゃないかなと思っておりますので、ここは根本的な本当のところを変えていただければと思っております。

町民プールは、今、検討委員会開かれてるので、その答申を待ってやったらいいと思いますけど、ここは町民の健康増進ということなんで、ここはぜひ残して、きちっとやるべきだというふうに思ってますし、年間パスポートの話も係ってくるので、その辺りは分けてぜひ考えてください。

松の湯については、ユートピア浜坂と距離550メートルです。ここの施設の、なくなってもユートピア浜坂に550メートル、行けると思いますので、そういったところは、毎年600万円の税金も投入してますし、改修検討が1億円という数字が出てきてますので、その辺りは、私は松の湯はきれいに廃止したほうがいいんじゃないか

というふうに思います。

ジオパーク館については、改修にこれも5,000万円の予算が想定されてました。毎年1,900万円の税金が投入されておりますし、もう役割は終わったんじゃないかなというところもありつつも、もし、存続するんだったら入場料を100円でも取っていたいて、以前から言ってますように、教育旅行に最適なところだと思うので、その辺りを、牧場公園と同じなんですけども、PRいただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 具体的な提案、ありがとうございます。役場の行政の目線、それから議員としての目線、多分、共通項も多いと思いますので、そういった点、改めて御意見を生かせるようにやってまいります。

○副議長（中村 茂君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 最後の質問です。観光客にとって、町の顔である町の公衆トイレの洋式化と修繕です。先日、私も天草のほうに行ったんですけども、西の本当に人のいないようなところの公共公衆トイレでも、ウォシュレットと洋式が置かれています。それは、もう町の顔になっておりますので、その辺りの公衆トイレの洋式化と、ウォシュレットとまではいかないまでも洋式化についての、次年度中にも必要、そんなに量ないので必要と思いますけども、いかがでしょうか。最後の質問です。

○副議長（中村 茂君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘の、トイレでまちづくり、こんな町も増えているということを聞いております。順次、トイレの洋式化、実行します。

○副議長（中村 茂君） これをもって西村龍平君の質問を終わります。

○副議長（中村 茂君） お諮りいたします。本日の会議はこの辺りで延会したいと思います。これに異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（中村 茂君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれをもって延会することに決定いたしました。

本日はこれで延会します。

次は、3月1日金曜日、午前9時から会議を開きますので、議会議事堂にお集まりください。長時間お疲れさまでした。

午後2時15分延会
